

平成 24 年度 業務実績報告書（案）

参考資料集

平成 25 年 6 月

公立大学法人 名古屋市立大学

目次

年度計画 No.	資料名	頁数
1	平成 2 7 年度入試科目	1
3	教養教育カリキュラムの再編	5
5	コミュニケーション能力向上科目	8
8	学士課程の学位授与方針及び教育課程編成方針の検討案	10
9	G P A の分析結果	14
10	人文社会学部の学部共通科目	20
18	人文社会学部カリキュラム改変・学科名称変更	22
19	学科再編後の研究指導・カリキュラム	25
26	各研究科の教育課程編成方針及び学位授与方針の検討案	26
27	共同大学院ナノメディシン科学専攻	35
30	国際学会発表支援事業の概要、国際学会実績報告	36
31	ティーチングアシスタント制度	38
47	授業評価アンケート結果・大学満足度調査結果の概要	41
47	研究授業の実施状況	44
57	創薬等ライフサイエンス研究支援基盤事業への採択	47
58	プロジェクト研究の概要	52
59	人文社会学部 E S D プロジェクト研究会 25.2.5 公開シンポジウム「E S D と大学」	54
60	はくぶつかんまつり、O S U ワークショップ	56
61	芸術工学研究科における受託研究の概要	59
62	看護実践支援センターの概要	60
63	生物多様性センターの事業実績	61
69	ワークライフバランス相談室の概要	63
74	女性会館・生涯学習推進 C ・区生涯学習 C 講座の開催結果一覧	64
74	ウェルフェア健康大学の概要及び結果	66
78	大学間交流協定の実績	68
81	東棟（喜谷記念がん治療センター）の概要	70
84	地域周産期母子医療センターの認定	73
105	病院機能評価の受診準備	74
107	入院支援センターの概要	75
108	大学事務局組織図	77
110	教員の定員削減計画	78
112	係長昇任選考の実施結果	79
117	財務諸表と説明資料	80

120	名古屋市立大学交流会	94
121	寄付パンフレット	95
138	アクションプラン	97
150	部局職階別女性比率	99
152	コンプライアンス通信	100

【年度計画 1】

平成27年度名古屋市立大学入学者選抜における数学・理科の出題科目について（予告）

平成24年6月29日

平成24年度から実施される新高等学校学習指導要領による数学・理科の平成27年度大学入試センター試験利用教科・科目及び個別学力検査の出題科目等については、次のとおり予告します。数学・理科以外の教科・科目の変更はありません。

ただし、大学入試センターが平成27年度大学入試センター試験における出題教科・科目の試験時間及び配点等を公表した後、その内容によっては変更する場合がありますので、本学からの発表についてご注意ください。

【医学部】 現在の時点での予告であり、今後諸事情の変化により変更する可能性もありますのでご注意ください。

医学部		推薦入試B	地域枠推薦入試	一般入試（前期日程）	私費外国人留学生入試
大学入試センター試験	数学①	数学 I	—	—	—
		数学 I・数学 A	必須	必須	必須
	数学②	数学 II	—	—	—
		数学 II・数学 B	1 科目選択	1 科目選択	1 科目選択
		工業数理基礎 ※			
	簿記・会計 ※				
	理科	情報関係基礎 ※	2 科目選択	2 科目選択	2 科目選択
		物理基礎			
		化学基礎			
		生物基礎			
		地学基礎			
		物理			
		化学			
	生物				
個別学力検査	数学	地学	2 科目選択	2 科目選択	
		数学 I			
		数学 II			
		数学 III			
		数学 A			
	数学 B				
	理科	物理基礎・物理 ★	2 科目選択	2 科目選択	
		化学基礎・化学 ★			
		生物基礎・生物 ★			
		物理基礎			
化学基礎					

※「工業数理基礎」「簿記・会計」「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限る

★「物理基礎・物理」は「物理基礎」・「物理」の全範囲から出題する

「化学基礎・化学」は「化学基礎」・「化学」の全範囲から出題する

「生物基礎・生物」は「生物基礎」・「生物」の全範囲から出題する

【薬学部】 現在の時点での予告であり、今後諸事情の変化により変更する可能性もありますのでご注意ください。

薬学部		推薦入試B	一般入試（中期日程）
大学入試センター試験	数学①	数学 I	—
		数学 I・数学 A	必須
	数学②	数学 II	—
		数学 II・数学 B	1 科目選択
		工業数理基礎 ※	
	簿記・会計 ※		
	理科	情報関係基礎 ※	2 科目選択
		物理基礎	
		化学基礎	
		生物基礎	
		地学基礎	
		物理	
		化学	
	生物		
個別学力検査	数学	地学	2 科目選択
		数学 I	
		数学 II	
		数学 III	
		数学 A	
	数学 B		
	理科	物理基礎・物理	2 科目選択
		化学基礎・化学 ★	
		生物基礎・生物	
		物理基礎	
化学基礎			

※「工業数理基礎」「簿記・会計」「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限る

★「化学基礎・化学」は「化学基礎」・「化学」の全範囲から出題する

【経済学部】 現在の時点での予告であり、今後諸事情の変化により変更する可能性もありますのでご注意ください。

経済学部		推薦入試B	一般入試（前期日程）	一般入試（後期日程）	
大学入試センター試験	数学	数学①	数学Ⅰ	—	—
			数学Ⅰ・数学A	必須	必須
		数学②	数学Ⅱ	—	—
			数学Ⅱ・数学B	必須	必須
			工業数理基礎	—	—
			簿記・会計	—	—
	理科	情報関係基礎	—	—	
		物理基礎	—	理科1科目（基礎を付した科目については、2科目で1科目とする）と地歴・公民1科目のうち高得点を合否判定に用いる	理科1科目（基礎を付した科目については、2科目で1科目とする）と地歴・公民1科目のうち高得点を合否判定に用いる
		化学基礎	—		
		生物基礎	—		
		地学基礎	—		
		物理	—		
		化学	—		
		生物	—		
地学	—				
個別学力検査	数学	数学Ⅰ	—	全範囲	全範囲
		数学Ⅱ	—	全範囲	全範囲
		数学Ⅲ	—	—	—
		数学A	—	全範囲	全範囲
		数学B	—	「数列」及び「ベクトル」	「数列」及び「ベクトル」
	理科	物理基礎・物理	—	—	—
		化学基礎・化学	—	—	—
		生物基礎・生物	—	—	—

【人文社会学部】 現在の時点での予告であり、今後諸事情の変化により変更する可能性もありますのでご注意ください。

人文社会学部		一般入試（前期日程）		一般入試（後期日程）			
		心理教育学科・現代社会学科	国際文化学科	心理教育学科・現代社会学科	国際文化学科		
大学入試センター試験	数学	数学①	数学Ⅰ	—	—		
			数学Ⅰ・数学A	必須	必須		
		数学②	数学Ⅱ	—	1科目選択	—	1科目選択
			数学Ⅱ・数学B	—	—	—	—
			工業数理基礎	—	—	—	—
			簿記・会計	—	—	—	—
	理科	情報関係基礎	—	—	—	—	
		物理基礎	「理科1科目（基礎を付した科目については、2科目で1科目とする）と地歴・公民1科目」または「地歴・公民2科目」を合否判定に用いる	「理科1科目（基礎を付した科目については、2科目で1科目とする）と地歴・公民1科目」または「地歴・公民2科目」を合否判定に用いる	「理科1科目（基礎を付した科目については、2科目で1科目とする）と地歴・公民1科目」または「地歴・公民2科目」を合否判定に用いる	「理科1科目（基礎を付した科目については、2科目で1科目とする）と地歴・公民1科目」または「地歴・公民2科目」を合否判定に用いる	
		化学基礎					
		生物基礎					
		地学基礎					
		物理					
		化学					
		生物					
地学							
個別学力検査	数学	数学Ⅰ	—	—	—		
		数学Ⅱ	—	—	—		
		数学Ⅲ	—	—	—		
		数学A	—	—	—		
		数学B	—	—	—		
	理科	物理基礎・物理	—	—	—	—	
		化学基礎・化学	—	—	—	—	
		生物基礎・生物	—	—	—	—	

【芸術工学部】 現在の時点での予告であり、今後諸事情の変化により変更する可能性もありますのでご注意ください。

芸術工学部			推薦入試B	一般入試（前期日程）	一般入試（後期日程）	
大学入試センター試験	数学	数学①	数学Ⅰ	—	—	1科目選択
			数学Ⅰ・数学A	必須	必須	
		数学②	数学Ⅱ	—	—	1科目選択
			数学Ⅱ・数学B	必須	必須	
			工業数理基礎 ※	—	—	
			簿記・会計 ※	—	—	
	理科	理科	情報関係基礎 ※	—	—	2科目選択
			物理基礎	—	—	
			化学基礎	—	—	
			生物基礎	—	—	
			地学基礎	—	—	
			物理	—	—	
			化学	—	—	
			生物	—	—	
個別学力検査	数学	数学	数学Ⅰ	—	全範囲	—
			数学Ⅱ	—	全範囲	—
			数学Ⅲ	—	全範囲	—
			数学A	—	全範囲	—
			数学B	—	「数列」及び「ベクトル」	—
	理科	理科	物理基礎・物理	—	—	—
			化学基礎・化学	—	—	—
			生物基礎・生物	—	—	—

※「工業数理基礎」「簿記・会計」「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限る

- 6 -

【看護学部】 現在の時点での予告であり、今後諸事情の変化により変更する可能性もありますのでご注意ください。

看護学部			推薦入試B	一般入試（前期日程）	一般入試（後期日程）	
大学入試センター試験	数学	数学①	数学Ⅰ	—	—	—
			数学Ⅰ・数学A	必須	必須	必須
		数学②	数学Ⅱ	—	—	—
			数学Ⅱ・数学B	1科目選択	1科目選択	1科目選択
			工業数理基礎 ※			
			簿記・会計 ※			
	情報関係基礎 ※					
	理科	理科	物理基礎	「理科2科目（基礎を付した科目については、2科目で1科目とする。ただし、同一名称を含む科目の受験は認めない）と地歴・公民1科目」または「理科1科目（基礎を付した科目については、2科目で1科目とする）と地歴・公民2科目」を合否判定に用いる	「理科2科目（基礎を付した科目については、2科目で1科目とする。ただし、同一名称を含む科目の受験は認めない）と地歴・公民1科目」または「理科1科目（基礎を付した科目については、2科目で1科目とする）と地歴・公民2科目」を合否判定に用いる	「理科2科目（基礎を付した科目については、2科目で1科目とする。ただし、同一名称を含む科目の受験は認めない）と地歴・公民1科目」または「理科1科目（基礎を付した科目については、2科目で1科目とする）と地歴・公民2科目」を合否判定に用いる
			化学基礎			
			生物基礎			
			地学基礎			
			物理			
			化学			
			生物			
地学						
個別学力検査	数学	数学	数学Ⅰ	—	—	—
			数学Ⅱ	—	—	—
			数学Ⅲ	—	—	—
			数学A	—	—	—
			数学B	—	—	—
	理科	理科	物理基礎・物理	—	—	—
			化学基礎・化学	—	—	—
			生物基礎・生物	—	—	—

※「工業数理基礎」「簿記・会計」「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限る

- 7 -

【年度計画3】 教養教育カリキュラム

下記一覧表中、「必」=必修科目、「選」=選択科目、「自」=自由科目、*印=指定科目です（P. を参照して下さい）
「必」「選」「自」いずれれも配当がない科目は、その学部のカリキュラム外の科目となりますので、履修できません。

区分	授業科目(副題)	担当 年次	開講 期	単位 数	医	薬	経済	人文 社会	芸術 工学	履修	備考
大学 特色 科目	特色科目1 (教養としてしておきたい様々な病気の実態)	医学部提供	1 前後	2	自	選	選	選	選	選	
	特色科目2 (創業と生命)	薬学部提供	1 前	2	選	選	選	選	選	選	
	特色科目3 (環境と薬学)	薬学部提供	1 前	2	選	選	選	選	選	選	
	特色科目4 (持続可能な社会をつくる社会事業)	経済学部提供	1 後	2	選	選	選	選	選	選	
	特色科目5 (ワーク・ライフ・バランス)	経済学部提供	1 後	2	選	選	選	選	選	選	
	特色科目6 (次世代育成の課題)	人文社会学部提供	1 前	2	選	選	選	選	選	選	
	特色科目7 (省資源・省エネルギー型の社会を考える)	芸術工学部提供	1 前	2	選	選	選	選	選	選	
	特色科目8 (デザインと情報)	芸術工学部提供	1 前	2	選	選	選	選	選	選	
	特色科目9 (社会環境論)	看護学部提供	1 前	2	選	選	選	選	選	選	
	特色科目10 (メディア環境論)	看護学部提供	1 後	2	選	選	選	選	選	選	
	特色科目11 (植物の多様性と環境)	シオリアン自然科学部 自然科学部提供	1 前	2	選	選	選	選	選	選	集中講義
	特色科目12 (動物とヒトの進化多様性)	シオリアン自然科学部 自然科学部提供	1 前	2	選	選	選	選	選	選	
	特色科目13 (男女共同参画社会をめざして)	男女共同参画推進提供	1 前	2	選	選	選	選	選	選	
	特色科目14 (ジェンダー入門)	人文社会学部提供	1 後	2	選	選	選	選	選	選	
	特色科目15 (共生社会におけるふれあいネットワーク)	医学部提供	1 前	2	選	選	選	選	選	選	集中講義
	特色科目16 (平和論)	人文社会学部提供	1 後	2	選	選	選	選	選	選	
	特色科目17 (正義論)	人文社会学部提供	1 後	2	選	選	選	選	選	選	
	特色科目18 (キャリアデザイン)	経済学部提供	1 後	2	選	選	選	選	選	選	
	特色科目19 (地域企業の国際化)	経済学部提供	1 前	2	選	選	選	選	選	選	集中講義
	特色科目20 (AIDSと向きあう社会)	看護学部提供	1 前	2	選	選	選	選	選	選	
学外実習1 (暮らしをらしむ山村行啓)	人文社会学部提供	1 前	2	選	選	選	選	選	選		
学外実習2 (中国短期語学研修)	人文社会学部提供	1 後	2	選	選	選	選	選	選	集中講義	
学外実習3 (フランス短期語学研修)	人文社会学部提供	1 後	2	選	選	選	選	選	選	集中講義	
学外実習4		1	1	2	選	選	選	選	選	平成25年度非開講	

一般 教養 科目

区分	授業科目(副題)	担当 年次	開講 期	単位 数	医	薬	経済	人文 社会	芸術 工学	履修	備考	
大学 特色 科目	現代社会1		1 後	2	選	選	選	選	選	選	平成25年度非開講	
	現代社会2 (情報社会とメディア)		1 後	2	選	選	選	選	選	選		
	経済学1 (経済学の考え方)		1 後	2	選	選	自	選	選	選		
	経済学2 (経済のしくみ)		1 前	2	選	選	自	選	選	選		
	経営学1 (企業と社会、個人の関係)		1 前	2	選	選	自	選	選	選		
	経営学2 (会計・ファイナンスと情報処理)		1 後	2	選	選	自	選	選	選		
	社会学1 (社会学概論)		1 前	2	選	選	選	選	選	選		
	社会学2 (地域社会学)		1 後	2	選	選	選	選	選	選		
	社会学3 (近代社会のなりたち)		1 後	2	選	選	選	選	選	選		
	政治学1 (現代日本の政治)		1 前	2	選	選	選	選	選	選		
	政治学2 (戦後の日本と世界の政治経済的動向-政治とはなにか)		1 後	2	選	選	選	選	選	選		
	政治学3 (「国民国家」とは何か)		1 前	2	選	選	選	選	選	選	集中講義	
	政治学4		1 後	2	選	選	選	選	選	選	平成25年度非開講	
	国際関係論1 (グローバル政治経済論)		1 前	2	選	選	選	選	選	選	集中講義	
	国際関係論2 (現代アメリカ外交の基礎知識)		1 前	2	選	選	選	選	選	選		
	国際関係論3		1 後	2	選	選	選	選	選	選	平成25年度非開講	
	現代社会の諸相											
	一般教養科目											
	共通科目											

下記一覧表中、「必」=必修科目、「選」=選択科目、「自」=自由科目、*印=指定科目です（P. を参照して下さい）
「必」「選」「自」いずれれも配当がない科目は、その学部のカリキュラム外の科目となりますので、履修できません。

下記一覧表中、「必」=必修科目、「選」=選択科目、「自」=自由科目、*印=指定科目です（F.を参照して下さい）
 「必」、「選」、「自」、いずれも応募がない科目は、その学部のカリキュラム外の科目となりますので、履修できません。

区分	授業科目(副題)	配当年次	開講期	単位数	医	薬	経済	人文社会	芸術工学	看護	備考
一般教養科目	文化の理解1 (日本語のしくみと文章表現)	1	後	2	選	選	選	選	選	選	
	文化の理解2 (東洋の歴史と文化)	1	後	2	選	選	選	選	選	選	
	文化の理解3 (日本の文化史と古典作品1)	1	前	2	選	選	選	選	選	選	
	文化の理解4 (日本の文化史と古典作品2)	1	後	2	選	選	選	選	選	選	
	文化の理解5	1	後	2	選	選	選	選	選	選	平成25年度非開講
	文化の理解6 (日本宗教史入門)	1	前	2	選	選	選	選	選	選	
	文化の理解7 (日本語コミュニケーション)	1	後	2	選	選	選	選	選	選	
	歴史の認識1 (日本史入門1)	1	前	2	選	選	選	選	選	選	
	歴史の認識2 (日本史入門2)	1	後	2	選	選	選	選	選	選	
	歴史の認識3 (ヨーロッパ史入門1)	1	前	2	選	選	選	選	選	選	
	歴史の認識4 (ヨーロッパ史入門2)	1	後	2	選	選	選	選	選	選	
	歴史の認識5 (東アジア史入門1)	1	前	2	選	選	選	選	選	選	
	歴史の認識6 (東アジア史入門2)	1	後	2	選	選	選	選	選	選	
	歴史の認識7 (アメリカ史入門)	1	前	2	選	選	選	選	選	選	
	人類学1 (異文化理解入門)	1	前	2	選	選	選	選	選	選	
	人類学2 (マナー・シヤル・諸島の歴史と現在)	1	後	2	選	選	選	選	選	選	
	地理学1 (都市と郊外の地理学)	1	前	2	選	選	選	選	選	選	
	地理学2 (人文地理学)	1	後	2	選	選	選	選	選	選	
	人間性の探求1 (音楽と文化)	1	前	2	選	選	選	選	選	選	
	人間性の探求2 (美術の歴史と鑑賞)	1	前	2	選	選	選	選	選	選	
	人間性の探求3 (人間とデザイン)	1	前	2	選	選	選	選	選	選	集中講義
	哲学1 (哲学入門1)	1	前	2	選	選	選	選	選	選	
	哲学2 (哲学入門2)	1	後	2	選	選	選	選	選	選	
	宗教学 (宗教学入門)	1	後	2	選	選	選	選	選	選	
	心理学1	1	後	2	選	選	選	選	選	選	
心理学2 (こころ・身体・環境のダイナミックス)	1	後	2	選	選	選	選	選	選		
心理学3 (人間関係の心理)	1	前	2	選	選	選	選	選	選		
倫理学1 (応用倫理学・生命倫理の現在)	1	前	2	選	選	選	選	選	選		
倫理学2 (応用倫理学入門・環境保全の倫理学)	1	後	2	選	選	選	選	選	選		
倫理学3 (基礎からわかる倫理学)	1	前	2	選	選	選	選	選	選		
倫理学4 (実存と倫理)	1	後	2	選	選	選	選	選	選		
文化と個性の探求											
一般教養科目											
共通科目											

下記一覧表中、「必」=必修科目、「選」=選択科目、「自」=自由科目、*印=指定科目です（F.を参照して下さい）
 「必」、「選」、「自」、いずれも応募がない科目は、その学部のカリキュラム外の科目となりますので、履修できません。

区分	授業科目(副題)	配当年次	開講期	単位数	医	薬	経済	人文社会	芸術工学	看護	備考	
一般教養科目	人間と自然1 (科学史)	1	後	2	選	選	選	選	選	選		
	人間と自然2 (環境と制度・社会・政治・経済)	1	前	2	選	選	選	選	選	選		
	人間と自然3 (環境科学)	1	前	2	選	選	選	選	選	選		
	人間と自然4 (環境科学)	1	後	2	選	選	選	選	選	選		
	人間と自然5 (環境と法律)	1	前	2	選	選	選	選	選	選	集中講義	
	人間と自然6 (社会と医学)	1	前	2	選	選	選	選	選	選		
	人間と自然7 (くすりと社会)	1	後	2	選	選	選	選	選	選		
	人間と自然8 (都市の緑と自然)	1	前	2	選	選	選	選	選	選		
	人間と自然9	1	後	2	選	選	選	選	選	選	平成25年度非開講	
	人間と自然10 (科学と統計のリテラシー)	1	後	2	選	選	選	選	選	選		
	人間と自然11	1	後	2	選	選	選	選	選	選	平成25年度非開講	
	人間と自然12	1	後	2	選	選	選	選	選	選	平成25年度非開講	
	自然と数理1 (意思決定の数理)	1	後	2	選	選	選	選	選	選		
	自然と数理2 (統計学入門)	1	後	2	選	選	選	選	選	選		
	自然と数理3 (宇宙のなりたち)	1	前	2	選	選	選	選	選	選		
	自然と数理4 (植物とバイオテクノロジー)	1	前	2	選	選	選	選	選	選		
	自然と数理5 (化学反応のしくみ)	1	前	2	選	選	選	選	選	選		
	自然と数理6 (エネルギーのサイエンス)	1	後	2	選	選	選	選	選	選		
	自然と数理7 (バイオサイエンス入門)	1	後	2	選	選	選	選	選	選		
	自然と数理8 (情報と数理の世界)	1	後	2	選	選	選	選	選	選		
	自然と数理9 (地球史入門)	1	後	2	選	選	選	選	選	選		
	自然と数理10 (地産生態学)	1	後	2	選	選	選	選	選	選		
	* コミュニケーション英語1	1	前	1	必	必	必	必	必	必	必	学部により前期または後期
	* コミュニケーション英語2	1	前	後	1	必	必	必	必	必	必	学部により前期または後期
	* コミュニケーション英語3	1	後	1	必	必	必	必	必	必	必	国際文化学科のみ「必」
* コミュニケーション英語4	1	後	1	必	必	必	必	必	必	必	国際文化学科のみ「必」	
* 総合英語1	1	前	後	1	必	必	必	必	必	必	国際文化学科により前期または後期	
* 総合英語2	1	前	後	1	必	必	必	必	必	必	国際文化学科により前期または後期	
* 総合英語3	1	1・2	前後	1	必	必	必	必	必	必	国際文化学科により前期または後期	
* 総合英語4	1	1・2	前後	1	必	必	必	必	必	必	国際文化学科により前期または後期	
* 応用英語1	2	前	1	選	選	選	選	選	選	選	国際文化学科により集中講義	
* 応用英語2	2	後	1	選	選	選	選	選	選	選	国際文化学科により集中講義	
英語リフレッシュ1 (再履修履修用)	1	前	1	選	選	選	選	選	選	選		
英語リフレッシュ2 (再履修履修用)	1	後	1	選	選	選	選	選	選	選	3年次輸入生のみの「選」	
英語												
外国語科目												

下記一覧表中、「必」=必修科目、「選」=選択科目、「自」=自由科目、*印=指定科目です（F.を参照して下さい）
 「必」、「選」、「自」いずれも応酬がない科目は、その学部のカリキュラム外の科目となりますので、履修できません。

区分	授業科目(副題)	配当年次	開講期	単位数	医	薬	経済	人文社会	芸術工学	看護	備考
外国語科目	* ドイツ語A	1 前期	1 前	1	選	選	選	選	選	選	
	* ドイツ語B	1 前期	1 前	1	選	選	選	選	選	選	学部により前期または後期
	* ドイツ語C	1 後期	1 後	1							
	* ドイツ語D	1 後期	1 後	1							
	* フランス語A	1 前期	1 前	1	選	選	選	選	選	選	
	* フランス語B	1 前期	1 前	1	選	選	選	選	選	選	学部により前期または後期
	* フランス語C	1 後期	1 後	1							
	* フランス語D	1 後期	1 後	1							
	* 中国語A	1 前期	1 前	1	選	選	選	選	選	選	
	* 中国語B	1 前期	1 前	1	選	選	選	選	選	選	学部により前期または後期
	* 中国語C	1 後期	1 後	1							
	* 中国語D	1 後期	1 後	1							
	* 日本語リーディング・リスニング1	1 前期	1 前	1	自	自	自	自	自	自	
	* 日本語ライティング1	1 前期	1 前	1	自	自	自	自	自	自	
	* 日本語リーディング・リスニング2	1 後期	1 後	1	自	自	自	自	自	自	
	* 日本語ライティング2	1 後期	1 後	1	自	自	自	自	自	自	
	* 日本語プレゼンテーション1	1 前期	1 前	1	自	自	自	自	自	自	
	* 日本語ディスカッション1	1 前期	1 前	1	選	選	選	選	選	選	
	* 日本語プレゼンテーション2	1 後期	1 後	1	自	自	自	自	自	自	
	* 日本語ディスカッション2	1 後期	1 後	1	自	自	自	自	自	自	
情報科目	* 情報・統計処理	1 前期	1 前	2	必						
	* 情報処理基礎	1 前期	1 前	2	選	選	選	選	必	選	履修クラスにより前期または後期
	情報処理応用	1 前期	1 前	2	自	選	選	選		選	
	* 情報処理	1 後期	1 後	2							
	* 情報検索基礎	1 前期	1 前	2							
	* 健康・スポーツ科学論(含演習)	1 前期	1 前	1	必	必	必	必	必	必	履修クラスにより前期または後期
	* 健康・スポーツ実技	1 前期	1 前	1	必	必	必	必	必	必	履修クラスにより前期または後期
	ボランティア科目	1 随時	1 随	1	自	選	選	選	自	自	詳細は、参照

共通科目

下記一覧表中、「必」=必修科目、「選」=選択科目、「自」=自由科目、*印=指定科目です（F.を参照して下さい）
 「必」、「選」、「自」いずれも応酬がない科目は、その学部のカリキュラム外の科目となりますので、履修できません。

区分	授業科目(副題)	配当年次	開講期	単位数	医	薬	経済	人文社会	芸術工学	看護	備考
物理学	基礎物理学	1 前期	1 前	2	選						
	基礎物理学	1 後期	1 後	2	選						
	基礎物理学	1 後期	1 後	2	選						
	物理学基礎 A(力学基礎)	1 前期	1 前	2		必					履修で物理、系属修した者は、その他の科目を履修。
	物理学基礎 B(力学一般)	1 前期	1 前	2		必					
	物理学基礎 (電磁気学)	1 後期	1 後	2	選						
	有機化学	1 後期	1 後	2	選						
	化学概論	1 前期	1 前	2	選						
	生体分子化学	1 後期	1 後	2	選						
	基礎生物学	1 前期	1 前	2	選						
生物学	生物学基礎	1 前期	1 前	2		必/自					大学が規定する「必修」の科目（自然科学系のみ）、実務科
	生物学基礎	1 後期	1 後	2		必/自					大学が規定する「必修」の科目（自然科学系のみ）、実務科
	* 自然科学実験	1 後期	1 後	1	必						
	微分積分学	1 前期	1 前	2	選						
	微分積分学	1 後期	1 後	2	選						
	微分積分学	1 前期	1 前	2	選						
	線形代数	1 後期	1 後	2	選						
	* 数学A 1	1 前期	1 前	2						選	
	* 数学B 1	1 前期	1 前	2						選	
	* 数学A 2	1 後期	1 後	2						選	
数学・統計学	* 数学B 2	1 後期	1 後	2						選	
	統計学	1 前期	1 前	2	選						
	* 統計学A 1	1 前期	1 前	2						選	後期は履修修習。
	統計学A 2	1 後期	1 後	2						選	
	数学基礎	1 前期	1 前	2							必
	応用数学	1 後期	1 後	2							必
	数学基礎演習	1 前期	1 前	1							必
	応用数学演習	1 後期	1 後	1							必
	医薬看護早期体験学習	1 通年	1 通	2	必	選					必
	生命科学研究入門	1 通年	1 通	2							
基礎科学	1 前期	1 前	2							必	
家族社会学	2 後期	2 後	2							必	

基礎科目

【年度計画5】

【授業科目名】 文化の理解 1 (KGRU015020) Understanding Cultures 1
【時間割名】 文化の理解 1 (K5453)
【時間割担当】 成田徹男
【実施期】 後期
【単位数】 2
【曜日・時限】 金・4
【対象学生】 教養教育

■ 授業の目的・目標

<副題>：日本語のしくみと文章表現>

ほとんどの学生は日本語を母語としていて、誰もが不自覚に日本語を発話している。しかし、その母語である日本語を対象化して、どのような言語であるか説明したりすることは、実は、やさしくはない。文章を書く、という行為は、日本語学習者には無意識に使っている母語を意識化することとなる。

この科目では、言語学や日本語学に初めて接する受講者に、さまざまな身近なことからとらえ、日本語について考えさせることをとおして、日本語の考え方や、その基礎となる言語学的な前提を理解させることを第一の目的とし、文章を書く課題に取り組むことをとおして、日本語を自覚的に使用し、把握した事実や自分の考えを的確に表現し伝える方法を身につけさせることを第二の目的としている。言語を意識的に使おうとする習慣を身につけさせることが目標である。

■ 学習到達目標

日本語の考え方や、その基礎となる言語学的な前提について、基本概念、言語体系の基礎的構造、初歩的な分析方法を理解して、言語について客観的な態度をもてるようになり、日本語を自覚的に使用して、把握した事実や自分の考えを的確に表現し伝える方法を身につける。

■ 授業概要

ことばというのは、実はとらえどころのない不思議なものである。さまざまな事例や現象をあらためて考えさせることによって、言語や日本語についての勝手な思いこみに気づかせ、言語の精妙さや、日本語の多様性を感じ取らせたい。また、そのことについて説明していくことをとおして、言語伝達の基本や、言語学・日本語学の基礎概念、言語現象のとらえ方や分析方法の初歩を理解させる。そして、具体的に文章を書く作業とおして、言語を意識的に使い、把握した事実や自分の考えを的確に表現し伝える方法を身につけさせたい。

- 本科目では、毎回次の三つの課題を設定する。
- (1) 言語・日本語の性質や特質について説明を聞き理解する
 - (2) 提示された短い文章を読む
 - (3) 与えられた課題にそって、短い文章を書く
- 書かれた文章については、添削ないし助言をおこなう。

■ 授業計画

- 第1回 ことばは変なもの
- 第2回 「うそ」とは何だろうか？
- 第3回 ことばは変わる
- 第4回 言語はなぜ通じ、そして時に通じないのか？
- 第5回 「デラックス」言う妻体型デラックス！
- 第6回 言語はいくつある？
- 第7回 日本語は大言語か？
- 第8回 日本語はさほど変わった言語でも難しい言語でもない
- 第9回 「ガイジン」って何？
- 第10回 きまわりを発見しよう―復合語の連鎖
- 第11回 「さかさ」の逆さは「さかさ」、「秋」の反対は「鳥賊」
- 第12回 「を」と「お」の発音は違うか？
- 第13回 「も」と「く」か「も」と「ずく」か、「うなづく」か「うなずく」か？
- 第14回 「見れる」「来れる」「は眠るか？
- 第15回 豊かな日本語、豊かな言語生活

■ 成績判定基準

課題の提出物（ワークシート）の提出状況とその内容25%（5×5）、および毎回の提出物（課題の文章）の提出状況とその内容75%（5×15）による。

■ 教科書・テキスト

テキストは使用しない。随時、説明プリントを配布する。

■ 参考文献

伊坂淳一1997 『ここからはじまる日本語学』ひつじ書房
山崎浩一1998 『危険な文章講座』ちくま新書

■ 履修要件

添削・助言をおこなうという本科目の性質から、履修人数定員を30名に限定する。下記注意事項を参照のこと。

■ 履修上の注意事項

修習士資格取得のために必要な選択履修科目のひとつであるため、人文社会学部心理教育学科1年生の推薦入学系人間科学科2年生以上の修習士資格取得希望者は無条件で受け入れる。初回に履修希望者が、履修人数定員30名を上回った場合は、上記以外の履修希望者については、抽選で決定する。したがって、原則として、2回目以降からの履修は受け入れられない。

■ 履修者への要望事項

■ 連絡先・オフィスアワー

月曜日14時40分～17時50分 研究室：1号館（人文社会学部棟）5階529

■ 備考

【授業科目名】 文化の理解7 (K14520) Understanding Cultures 7
【時間割名】 文化の理解7 (K1453)
【時間割担当】 山田陽子
【実施期】 後期 【単位数】 2
【曜日・時間】 月・4
【対象学生】 教養教育

■ 授業の目的・目標
 受講生が相互協力し、積極的に演習や授業に参加することで、「話す力」、「聞く力」、「話す力」等を中心に社会人基礎力を身につける。具体的には、言語・非言語コミュニケーションを通して、より良いコミュニケーションのあり方・人間関係を円滑にする口頭表現技術、書く力、プレゼンテーション能力等、知識の獲得とともに場面や役割に対応できる能力、さらに大学時代のみならす将来を見据えた社会人としての必要な能力を身につける。

■ 学習到達目標
 1. コミュニケーションの多様性をよく理解し、社会人としての基礎的なコミュニケーションを意識した表現活動ができる。
 2. テーマに沿った企画、提案、プレゼンテーションができる。
 3. 質疑応答のスキル、ビジネスの話し方、敬語表現マナーを身につける。
 4. 他の受講生との協働により課題を解決する能力を身につける。

■ 授業概要
 講義と演習形式の両方を取り入れる。社会で必要とされる日本語表現、話し方、知識を身につけ、自分の意見を明確に「話す」、「説明する」、「プレゼンする」、「企画する」こと、相手の意見を理解し「きく」ことができるように、講義と演習を基礎からわかりやすく行う。

■ 授業計画
1 オリエンテーション (講義)
2 きく力 (講義+演習)
3 スピーチのテーマ設定と内容構成 (講義+演習)
4 発声の基本演習と「話す」、「読む」、「聞く」 (演習)
5 コミュニケーションのための話し方スキル (講義+演習)
6 説明するスキルと自己分析能力 (講義+演習)
7 非言語コミュニケーションの効果的な表現法 (講義)
8 対話 (ダイアログ) と対人関係を含むトレーニング (講義+演習)
9 社会人のマナー (学生と社会人のコミュニケーションの違い) (講義)
10 ビジネスおよび面接のための日本語表現 (敬語、電話の応対、ビジネスマナー) (講義+演習)
11 インタビューの方法と効果 (講義+演習)
12 プレゼンテーションの基本構成と視覚資料 (講義)
13 プレゼンテーションに必要な口頭表現技術と企画力 (講義+演習)
14 デイスクラスセッションスキルの育成 (話し合い) (講義+演習)
15 まとめ (講義)

■ 成績判定基準
 授業および演習参加度50%、レポート30%、課題提出物20%

■ 教科書・テキスト
 適宜プリントを配布します。毎回授業に持ってきてください。

■ 参考文献 必要時に授業で紹介します。
■ 履修要件
■ 履修上の注意事項 受講生の理解、演習の進捗度を見ながら、基礎からわかりやすく説明しますので、15回の授業計画の内容や順番を多少変更することもあります。
■ 履修者への要望事項 授業後に次回授業の内容、事前学習等を指示しますので、積極的に予習このぞんでください。
■ 連絡先・オフィスアワー 山田陽子 (E-mail) yyamada@insinyou@yahoo.co.jp
■ 備考

学部・学科別のポリシー（案）

学部	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
<p>学部 学士課程共通</p>	<p>各学部にて所定の期間在学し、各学部の教育理念と教育目的に沿って設定された授業科目を履修して、各学部の履修規程により定められた科目及び単位数を修得することが学位授与の要件である。 修得すべき科目には、一般教養科目、情報科目、健康・スポーツ科目、ポテンシア科目、基礎科目（人文社会学部以外）からなる教養教育科目と、各学部の方針に応じて編成された専門教育科目が含まれ、これらの科目を修得しているかどうかを学位授与の基準となる。さらに、一部学部においては、卒業論文又は卒業研究を必須とし、論文審査や口頭試問などにより厳格に審査を行うことで身に付けた学士力を確認している。</p> <p>以下の全ての項目を達成したものに医学士の学位を与える</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養課程および専門課程において所定の単位を取得し、臨床実習に出席して科目の認定を受けたもの。 2. 人体、各器官、組織、細胞の構造と機能、病態を理解していること。各種疾患の診断を行うことができ、その治療に関する知識を有すること。 3. 患者さんの問診、診察ができ、基本的な診療の技術を習得していること。 4. 患者さんとのコミュニケーションをとることができ、患者さんの立場に立った説明を行うことができること。 5. 社会、環境と医療・健康の関係を理解していること。地域医療の重要性について理解していること。 6. 医師、コメディカルスタッフとの良好な協力のもとに医療を行う準備ができていること。 7. 医療安全について知識をもち、医療におけるさまざまな倫理的問題を理解できること。 	<p>医師としての能力の以下の4領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 科学としての医学 ・ 医療の安全と技能 ・ 社会と医学 <p>医師としての姿勢と素養</p> <p>を各学年で巡回しつつ学習する。これにより、各領域の能力をバランス良く徐々に高め、学習目標を達成する。</p> <p>1年次には、領域として豊かな人間性の陶冶と幅広い教養を身につけるため、教養教育科目および専門科目としての医学入門を通じて科学としての医学を学ぶための基礎を形成する。領域として早期体験学習を通じ医療者としての基本技能を習得する。領域として医療系学部連携地域参加型学習を通じて地域医療での課題解決テーマとする学習を行う。領域として一般教養科目を通じて医師に相応しい素養を養う。</p> <p>2年次および3年次には、領域として基礎医学、臨床基礎医学を学ぶ。さらに3年次後半の基礎自主研修を通じて、医師に求められる科学者としての堅実な基礎と広い視野を形成する。領域としてコミュニケーション能力、救急救命処置、医療倫理を学習する。領域として法医学を学ぶと共に、社会医学領域の実践的な活動を体験する。領域として医学情報、医学英語を学び、医師として必要な情報処理能力、英語力を習得する。</p> <p>4年次には、領域として臨床医学を学び、基本的な医学知識を診療活動に参加できるレベルまで高める。領域として基本医療技能をさらに高め、客観的臨床能力試験により診療実習に参加できるレベルを担保する。領域として社会医学を学び、社会と医学との関わりを理解する。領域として医学・医療の様々な側面の学習を通じて、医師に求められる姿勢や態度を学ぶ。</p> <p>5年次にはすべての診療科における診療参加型臨床実習および社会医学実習、6年次は選択制の診療参加型臨床実習を行う。これらの実践を通じ、領域 ~ の能力をディプロマ・ポリシーが求めるレベルまで総合的に高める。</p>
<p>医学部 医学科</p>	<p>(学部共通)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療や科学の高度化に対応できる基礎学力と問題解決能力を有していること。 2. 国際化する社会で活躍できる日本語力、英語力、プレゼンテーション能力を有していること。 <p>(薬学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 6年以上在学し、所定の教養教育単位と専門単位を合わせて186単位以上を取得すること。 2. 薬剤師として必要な知識、技能を備えていること。 3. 医療人としてふさわしい自覚、態度、倫理観を備えていること。 <p>(生命薬科学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 4年以上在学し、所定の教養教育単位と専門単位を合わせて124単位以上を取得すること。 2. 創薬科学および生命科学に関する総合的な知識と技術を有していること。 3. 生命や健康を扱う社会人としての自覚、態度、倫理観を備えていること。 	<p>(学部共通)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな教養および人間性と国際性を育むため、幅広い教養教育を実施する。 2. 学生が自らの将来を明確に意識して学ぶことができるよう、早期体験科目や学外施設見学の機会を提供する。 3. 自然科学の基礎から薬学専門科目まで着実に身につけることができるよう、基礎薬学科目を薬学教育モデルコアカリキュラムに沿って配置する。 4. 科学的思考に立脚した問題発見能力および問題解決能力を醸成させるために、卒業研究実習を実施する。 <p>(薬学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療に貢献できる薬剤師を養成するため、医学部、看護学部、付属病院と連携した教育を実施する。 2. 薬剤師としての能力と態度を醸成できるように、医療薬学科目と実習科目を適切に配置する。 <p>(生命薬科学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 創薬研究者や医療科学の実践に関わる人材を養成するため、生命薬科学科目を提供する。 2. 生命科学の進展や先端技術の高度化に対応できる能力を涵養するため、大学院教育との連携を意識した科目・実習を配置する。
<p>薬学部</p>	<p>(学部共通)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療や科学の高度化に対応できる基礎学力と問題解決能力を有していること。 2. 国際化する社会で活躍できる日本語力、英語力、プレゼンテーション能力を有していること。 <p>(薬学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 6年以上在学し、所定の教養教育単位と専門単位を合わせて186単位以上を取得すること。 2. 薬剤師として必要な知識、技能を備えていること。 3. 医療人としてふさわしい自覚、態度、倫理観を備えていること。 <p>(生命薬科学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 4年以上在学し、所定の教養教育単位と専門単位を合わせて124単位以上を取得すること。 2. 創薬科学および生命科学に関する総合的な知識と技術を有していること。 3. 生命や健康を扱う社会人としての自覚、態度、倫理観を備えていること。 	<p>(学部共通)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな教養および人間性と国際性を育むため、幅広い教養教育を実施する。 2. 学生が自らの将来を明確に意識して学ぶことができるよう、早期体験科目や学外施設見学の機会を提供する。 3. 自然科学の基礎から薬学専門科目まで着実に身につけることができるよう、基礎薬学科目を薬学教育モデルコアカリキュラムに沿って配置する。 4. 科学的思考に立脚した問題発見能力および問題解決能力を醸成させるために、卒業研究実習を実施する。 <p>(薬学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療に貢献できる薬剤師を養成するため、医学部、看護学部、付属病院と連携した教育を実施する。 2. 薬剤師としての能力と態度を醸成できるように、医療薬学科目と実習科目を適切に配置する。 <p>(生命薬科学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 創薬研究者や医療科学の実践に関わる人材を養成するため、生命薬科学科目を提供する。 2. 生命科学の進展や先端技術の高度化に対応できる能力を涵養するため、大学院教育との連携を意識した科目・実習を配置する。

学部・学科別のポリシー（案）

学部	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
経済学部	<p>経済学部は、幅広く深い教養と豊かな人間性を身に付け、経済学と経営学の諸理論に精通し、経済・経営上の諸問題に柔軟かつ的確に対応できるような人材を社会に送り出すことを理念と目標に掲げている。幅広い視野を養い人間形成を図るための教養教育を土台として、専攻分野の諸理論を体系的に理解し、経済・社会の課題について自ら分析・検討できる総合的な判断能力を身につけているかどうか、卒業判定の基準となる。</p> <p>具体的には、定められた期間在学し、経済学部の理念と目標に沿って設定された授業科目を履修し、必要単位数を修得することが学位授与の要件である。</p> <p>最終的には、4年次の必修科目である「演習」（卒業研究の遂行、卒業論文の執筆等）での合格が最終的な卒業認定の条件となる。</p> <p>卒業要件単位数や履修すべき科目の構成等の具体的内容は「履修要項」に記載され、学生に周知されている。</p>	<p>経済学部は、広い教養を身に付け、経済学と経営学の諸理論に精通し、経済・経営上の諸問題に柔軟かつ的確に対応できるような人材を社会に送り出すことを学部の理念と目標に掲げている。この理念と目標を実現するために、以下のような方針でカリキュラムを策定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次に、幅広い視野を養い人間形成を図るための教養教育科目を履修する。その上で、学部の理念と目標に基づき専門教育を行うために、2年次に「公共政策学」、「マネジメンツシステム学」、「会計ファイナンス学」の3学科の所属を、学生の選択により決定する。 2. 専門教育のカリキュラムは1年生向けに「学部共通科目」を、学科所属決定後の2年生向けに学科毎の「学科基礎科目」を、3・4年生向けに学科毎の「応用展開科目」を、学び上げている。 <p>〔公共政策学〕は、市場経済の働きを十分理解した上で、国・自治体で政策立案を担う人材、また企業で経営企画を担う人材の育成を目指している。学部共通科目では経済学・経営学・会計学の基礎を学び、学科基礎科目では、経済理論や応用分野の分析方法と統計的手法について学習する。応用展開科目には、特定分野での経済事象・政策効果の分析を行なう幅広い科目が用意されている。</p> <p>〔マネジメンツシステム学〕では、様々な組織の仕組みについて、経営学と制度・歴史の視点から学習する。企業経営・組織を深く理解し、制度・歴史にも精通し、起業家精神を備えた人材の育成を目指して、カリキュラムを編成している。1年次では経済学・経営学の入門科目、2年次では経営学と制度・歴史分野に関する基礎科目、3・4年次にはより高度な専門性を身に付けるための幅広い応用展開科目が用意されている。また、体験的な学習機会としての事例分析・歴史連続講座なども開講している。</p> <p>〔会計ファイナンス学〕では、会計・ファイナンス・金融工学や関連する科目を体系的に理解し、それらを実践に結びつける能力を備えた人材の育成を目指して、カリキュラムを編成している。1年次では入門科目群、2年次では会計とファイナンスの分野に関する基礎科目、3・4年次では幅広い応用展開科目および少人数による演習、からなる体系的カリキュラムを築き、会計・ファイナンスの専門家や関連する分野の高度な職業人の養成を図る。また、関連する資格取得を支援する体制を整えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 1年生から4年生まで少人数による演習が必修である。1・2年生は「基礎演習」、において専門教育のための導入教育を受け、3・4年生は「演習」において経済・経営・会計の特定分野について深く学び、卒業研究を通じて、現実の経済や行政の政策課題、企業の経営課題などに取り組む。 4. 履修学生に十分な学習時間を確保するために、年間の履修科目登録の上限を、原則として1年次に48単位、2・3・4年次に40単位としている。

学部・学科別のポリシー（案）

学部 学科	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
人文社会学部	<p>(学部共通)</p> <p>《人材養成目的》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人類の豊かな未来を求めて人文科学・社会科学の諸分野について学び、今日の人間、社会、文化に関わる課題について研究して、それを社会に役立てる人材 2. 現代の地域社会や国際社会が直面する複雑な諸問題を多面的に考察し、実践的に解決していく知を身につけた人材 3. 少人数教育の演習・実習・論文指導によって、発表・討論能力や構想力・文章表現力を身に着けた人材 <p>以上の人材養成目的を達成するために、「豊かで人間らしい生き方のための持続可能な地域社会と地球社会をつくる教育」(ESD)を統一的教育理念として、さらに各学科の専門性において具体化された教育課程を編成・実施する。</p> <p>上記の教育課程において設定された授業科目を履修し、定められた期間在学し、卒業論文試験に合格し、基準となる単位数(96単位)を修得することが、学位授与の要件である。</p> <p>(心理教育学科)</p> <p>卒業論文試験に関して次の能力の獲得を確認する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学・教育学を基礎として、人間の多様性を尊重し、生涯発達を尊重し、生涯発達に関わり組むこと 2. 人間の個性、生涯発達の過程また環境との関係の中で生じる多様性について総合的に理解することで、子供の発達に関わる現代的諸課題の解決およびその健やかな発達を保障する教育と心理的支援に貢献できること <p>(現代社会学科)</p> <p>卒業論文試験に関して次の能力の獲得を確認する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会で現に生起している社会問題群を的確に認識する社会調査・分析能力を備えること 2. 多様性・多元性が高まる社会の中で、差異を認め、格差を乗り越え社会インフラのあり方を学び、地域社会の発展や協働・福祉に貢献できること <p>(国際文化学科)</p> <p>卒業論文試験に関して次の能力の獲得を確認する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人文科学・社会科学諸分野の幅広い教養を身につけ、グローバルかつローカルな視点から自文化と異文化の相互関係を理解して、文化と社会の特質を批判的かつ柔軟に把握できること 2. 英語その他の外国語の実践的な言語コミュニケーション能力を発揮して、地域社会と国際社会に貢献できること 	<p>(学部共通)</p> <p>人文社会学の人材養成目的を達成するために、「豊かで人間らしい生き方のための持続可能な地域社会と地球社会をつくる教育」(ESD)を教育理念として、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するカリキュラムを編成する。持続可能な社会の實現という課題をめぐって、人間の心理と教養の観点から、地域社会の視点から、そしてグローバルな視点から学際的に研究・教育することが本学部のカリキュラムの特徴である。そのために学部共通の基礎科目として、ESDに関する科目を9科目開講し、学生がESDに関する広い問題意識を獲得し、各学科別の専門科目の意義が理解しやすいように構成する。</p> <p>専門科目の構成と年次配当は、基礎科目(1年次) 基幹科目(1・2年次) 展開科目(2・3・4年次)と全学年に設ける。</p> <p>(心理教育学科)</p> <p>心理教育学科では、科学の眼と暖かな人間観を持った人として成長し、そのうえで、人の多様性を理解し、生涯発達への支援・次世代育成に関わり組む人材を養成する。そのためにESDに関する基礎科目(1年次) 心理学・教育学の基幹科目(1・2年次)をベースとして、展開科目(2・3・4年次)は「人の理解」「人を育む」「生涯発達と環境」「心理・教育の技法」という科目群から構成され、心理学と教育学を統合するカリキュラムを展開している。</p> <p>「人の理解」と「人を育む」の科目では心理学・教育学の発展的な基礎を学ぶ。「心理・教育の技法」の科目では、人を科学的に理解していくアプローチ方法や人を支援していく具体的な方法を学び、「生涯発達と環境」の科目では人の発達と発達に影響を及ぼす様々な環境要因について理解を深める。</p> <p>(現代社会学科)</p> <p>現代社会学科は、複雑な現代社会の姿を深く認識し、どうすれば社会の抱える諸課題を解決できるかを考える人材を養成する。そのためにESDに関する基礎科目(1年次) 社会学を中心に政治学、法学、社会福祉学、歴史学など基幹的内容を教える基幹科目(1・2年次)をベースとして、展開科目(2・3・4年次)は「理論と技法」「社会構想と行政」「都市と地域社会」「福祉と人権」という科目群から構成されている。</p> <p>「理論と技法」では現代社会を多角的に認識する能力と現実の社会を調査・分析するスキルを身につける。「社会構想と行政」では社会や自治体行政のありかたを構想する視点学ぶ。「都市と地域社会」では都市や地域社会で起きている諸問題を認識し、住みよく魅力的な都市・地域社会をつくる方法を学ぶ。「福祉と人権」では持続可能な福祉社会を形成していくにはどのような政策や行動が必要なのかを学ぶ。</p> <p>(国際文化学科)</p> <p>国際文化学科では、語学のみならず、異文化の理解と自文化の理解、そしてそれらを比較する視点から異文化間の交流と共生について考え行動する人材を養成する。そのためにESDに関する基礎科目(1年次)、国際文化学の基幹を教える基幹科目(1・2年次)をベースとして、展開科目(2・3・4年次)は「グローバルな共生」「異文化・自文化理解」「言語コミュニケーション」「フィドルワーク」という科目群から構成されている。「グローバルな共生」では、グローバル化し多文化社会化する国際社会と国民国家における共生という問題を掘り下げる。「異文化・自文化理解」では、欧米の文化を異文化として知るだけでなく、その異文化性を認識するために、日本やアジアの文化について学ぶ。「言語コミュニケーション」では、グローバルな交流に不可欠な総合的・実践的な英語力を養成し、また他の言語(ドイツ語・フランス語・中国語)も学ぶ。「フィドルワーク」では、国内および国外において地域の人々との真実的なコミュニケーションを通して問題を認識し、その解決を探る能力を養う。</p>

学部・学科別のポリシー（案）

学部 学科	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
芸術工学部	<p>(学部共通)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「感性」「技術」「人間理解」を軸に幅広い視野と教養、創造性豊かで高度な知識と技術を身につけ、デザインの理論と実践を通じ持続可能な地域社会および国際社会に貢献できる人材を輩出する。 2. 芸術工学部に4年以上在学し、芸術工学部が設定する教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修して、必修科目の全てとそれを含む124単位以上の修得が学位授与の要件である。 3. 卒業研究・卒業制作のいずれかを1年以上履修し、審査会での審査において、芸術工学部の教育理念に沿った、芸術・工学・デザインの理論と手法を修得することが合格基準である。 4. 卒業研究・卒業制作に着手するためには、3年次終了までに所定の単位を取得していることを条件とする。 <p>(情報環境デザイン学科)</p> <p>情報環境デザイン学科では、先端のインターフェース機器やソフトウェア、Webアプリケーションやネットワークプログラムの設計、開発、映像制作のできる理論と手法を修得していること。</p> <p>(産業イノベーション学科)</p> <p>産業イノベーションデザイン学科では、デザインと工学両方の視点から新事業や新製品の企画、開発を行うことができる理論と手法を修得していること。</p> <p>(建築都市デザイン学科)</p> <p>建築都市デザイン学科では、住宅・店舗や公共施設などの建築設計、あるいは都市デザインの防災安全、環境保全、街並保存など建築都市デザインを行うことができる理論と手法を修得していること。</p>	<p>(学部共通)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デザインと工学分野の幅広い知識と理論を学ぶことにより、持続可能な社会の構築に資する問題解決能力を養う。 2. デザインと工学分野の専門的知識、理論、技法を学ぶことにより、形態と機能のバランスを保ったデザイン力を養う。 3. デザインの実践教育の場として、少人数学習によるデザイン実習を重視する。 4. 外国人教師による講義やワークショップ等での実習指導により、国際的に活躍できる人材を養成する。 <p>(情報環境デザイン学科)</p> <p>情報環境デザイン学科では、人と情報空間をつなぐインターフェース設計、映像や音響による情報デザインを対象とするデザイン理論と技術の教育を行う。そのために情報通信技術の基礎から応用、インターフェースデザインや映像・音響デザインの理論と制作実践を体系的に学ぶカリキュラム編成を行なう。</p> <p>(産業イノベーション学科)</p> <p>産業イノベーションデザイン学科では、工業デザイン、グラフィックデザイン、3DCGを対象とするデザイン理論と技術の教育を行う。そのために電気、機械、情報工学の基礎から応用、工業デザイン、グラフィックデザイン、3DCGの技術と制作実践を体系的に学ぶカリキュラム編成を行なう。</p> <p>(建築都市デザイン学科)</p> <p>建築都市デザイン学科では、市民が安心して豊に暮らすことのできる建築都市を対象とするデザイン理論と技術の教育を行う。そのために建築都市の計画意匠、環境工学、構造工学の基礎から応用、インテリアデザイン、都市景観、防災、環境マネジメントの理論と制作実践を体系的に学ぶカリキュラム編成を行なう。</p>
看護学部 看護学科	<p>大学学則に基づく授業科目及び単位数の修得(126単位)など規定にある要件を満たし、以下の能力を身に付けた学生に対して、「学士」(看護学)の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科学的根拠と倫理観に基づき、安全で適切な看護を提供するための基礎的能力を身につけている。 2. チーム医療を担う一員として他職種役割を理解し、協働的関係を築き調整する能力を身につけている。 3. 看護の探究と看護学の発展につながる研究に必要な基礎的能力を修得している。 4. 個人の健康問題から地球規模の健康問題まで、外国語を含め幅広い視野で考え、実践することができ、社会の変化をとらえ、保健医療福祉のニーズに対応する看護の活動計画・実施および評価の基礎的能力を身につけている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広い視野で多角的に思考できる能力と豊かな人間性を育むために、1、2年次に語学をはじめ専門的な学習に必要な基礎的学力を修得する。そのために教養科目には、一般教養、外国語、情報、健康・スポーツ、ボランティア、早期体験学習、看護基礎の科目を配置し、専門基礎科目としては、コミュニケーション、人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復促進、健康と社会を位置づけ、それぞれ科目を講義中心に配置している。 2. 看護学の専門的知識・技術およびあらゆる対象への看護活動に必要な看護実践能力を3、4年次に修得する。そのために専門科目として、看護の基礎、生涯発達と看護、健康問題と看護、公衆衛生看護学を位置づけ、講義、演習、実習形式でそれぞれ科目を配置している。 3. 将来にわたり看護を継続的に探究し、自己研鑽し続けるための基本的能力を修得する。そのために専門科目として、看護の統合、看護の発展を位置づけ、総合的判断力が身につくようにそれぞれ科目を配置している。

大学での成績についての分析

このレポートでは、本学学生の学業成績について分析を行っている。

資料1は、最終（卒業時）成績をGPAで測り、1年前期と後期のGPAと対比したものである。

2002年度以降の入学生を分析対象としている。さらに、学年進行中の学生は、単位を取り切れ切れていないこともあり、分析対象から除外することとし、2008年度入学者までを分析対象とした。ただし、2008年度入学者でも薬学部薬学科の学生および留年や休学した学生は在籍中であることを留意する必要がある。

集計において、退学及び除籍された学生は除いている。また、2009年度以前はGPAを導入していないため、余分に履修登録する学生が多かったことから、成績評価が"失格"ないし"欠席"となっている科目はノーカウントとした。さらに、"取消"、"認定"、"合格"となっている科目もノーカウントとした。

1年前期ないし後期の成績と最終（卒業時）成績の間の相関係数は0.73～0.85であり、極めて高い相関を示している。このことは、1年前期ないし後期の成績が優秀な学生は、卒業時の成績も優秀となる傾向が高いことを意味している。この傾向は、薬学、経済、人社、芸工、看護のすべての学部には当てはまり、普遍的な傾向とみなすことができ、初年時教育の重要性が明らかになったと思われる。

資料2は、2008年度～2011年度の学期毎の全履修科目の平均GPAを学部別に図示したものである。青色は2009年度以前の入学者、赤色は2010年度以降の入学者を意味する。したがって、2010年度の青線は2年生以上、赤線は1年生、2011年度の青線は3年生以上、赤線は1・2年生となる。

2009年度以前入学者の成績は、優、良、可、不可を3、2、1、0で点数化し、2010年度以降入学者は、秀、優、良、可、不可を4、3、2、1、0で点数化している。「失格」「欠席」は、09年度以前入学者は除外し、10年度以降入学者は「不可」扱っている。さらに、成績評価が「認定」「合格」「取消」となっている科目は除外している。

図を見ても気づくことは、薬学部、人文社会学部、看護学部において、2009年度以前入学者（青線）と2010年度以降入学者（赤線）に目立った差がないが、経済学部と芸術工学部においては、両者が大きく乖離している。赤線は主に教養教育の成績、青線の2010年度以降は主に専門の成績であり、教養と専門の成績の差が出ていると考えられる。すなわち、薬学部、人文社会学部、看護学部は教養と専門の成績に差がないが、経済学部と芸術工学部は教養と専門の成績に差があると考えられる。

2009年度以前入学者（青線）の変動を概観すると、芸術工学部を除く4学部においては、GPAが増加傾向にある。

【薬学部】2.3前後で推移してきたが、最近では2.4前後へと増加している。

【経済学部】2.1前後で推移してきたが、最近では1.9前後に低下している。

【人文社会学部】2.4前後から2.5前後へと増加してきている。

【芸術工学部】2.2前後で推移してきたが、最近では2.0前後へと低下してきている。

【看護学部】2.3前後から2.4前後へと増加している。

一方、2010年度以降入学者（赤線）は、人文社会学部を除き、ほぼ2.4前後で推移しており、学部間の差が大きくない。

資料3は、学部別成績分布を、A.全成績、B.全成績（秀、優、良、可、不可のみ）、C.教養教育の成績、D.教養教育の成績（秀、優、良、可、不可のみ）、E.専門教育の成績、F.専門教育の成績（秀、優、良、可、不可のみ）に分類して図示している。さらに、それぞれを①2009年度以前入学生の2003～2011年度の成績と②2010年度以降入学生の2010～2011年度の成績に分けて図示している。

それぞれの特徴的な点を列記すると以下ようになる。

【A①】経済学部と芸術工学部で"不可"が多い、さらに、経済学部は"欠席"が多く、芸術工学部は"失格"が多い。

【A②】経済学部は"秀"が多いが"優"が少ない。"不可"は、芸術工学部、経済学部、薬学部の順に多い。"失格"と"欠席"学部間の差が大きくない。人文社会学部は"認定"が多い。

【B①】経済学部と芸術工学部で"不可"が多く、その分"優"が少ない。

【B②】"秀"と"優"の和が人文社会学部で60%を超えるが、他学部ではほぼ50%程度である。その逆に人文社会学部では"可"が少ない。

【C①】人文社会学部と看護学部で"優"が50%を超えている。一方、人文社会学部では"可"が少ない。

【C②】看護学部で"秀"、"優"、"良"の和が88%程度であるが、他学部ではほぼ70%代である。

【D①】人文社会学部は"優"が60%を超え、"可"が少ない。

【D②】薬学部の"不可"が多く、人文社会学部と看護学部の"可"が少ない。

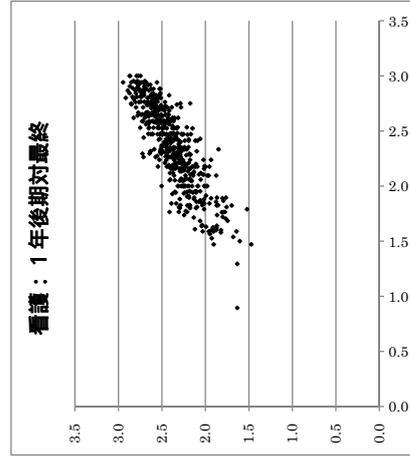
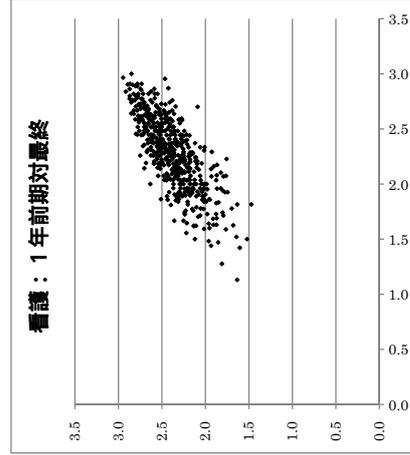
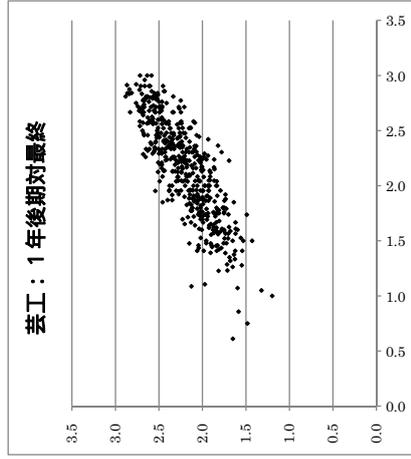
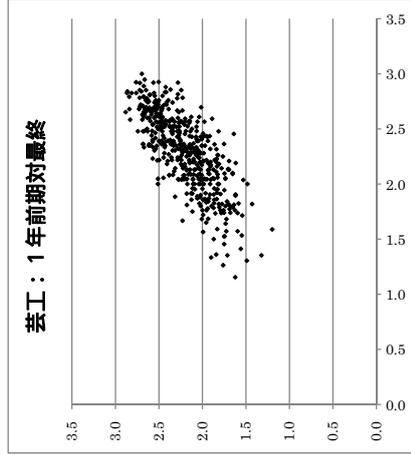
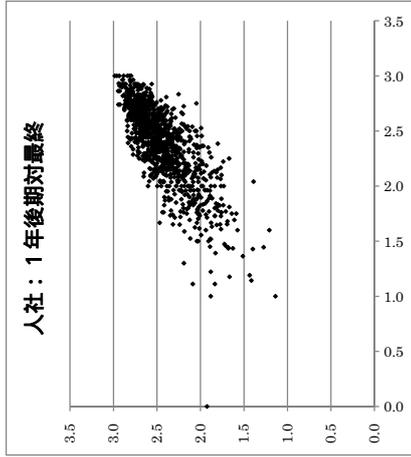
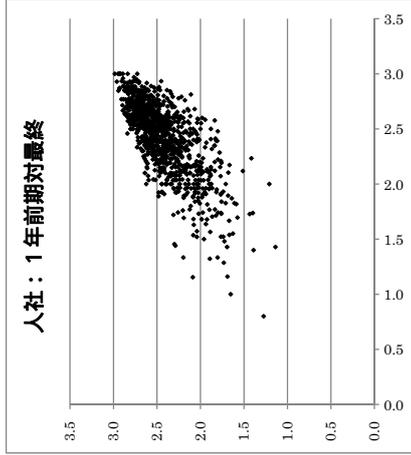
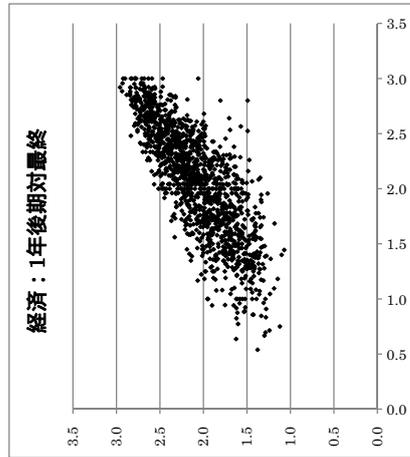
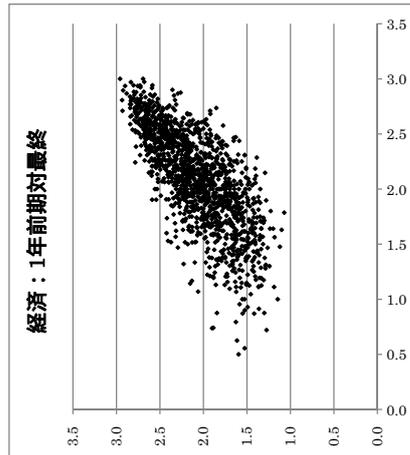
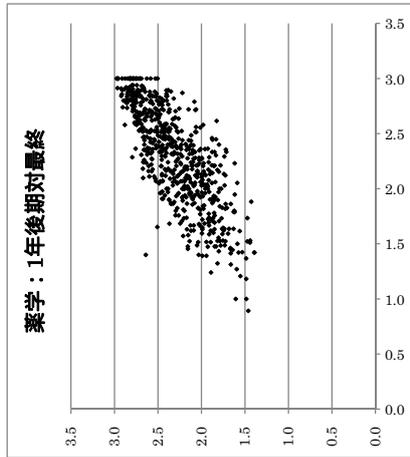
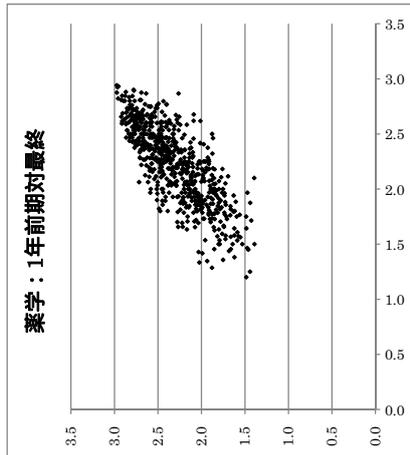
【E①】経済学部と芸術工学部で"優"が少ない。経済学部では"優"と"良"の和が他学部と比較してかなり少ない。一方、経済学部で"欠席"が多く、芸術工学部で"失格"が多い。

【E②】経済学部の"秀"が多く、人文社会学部の"優"が多い。人文社会学部の"可"が少なく、芸術工学部と経済学部は"不可"が多い。

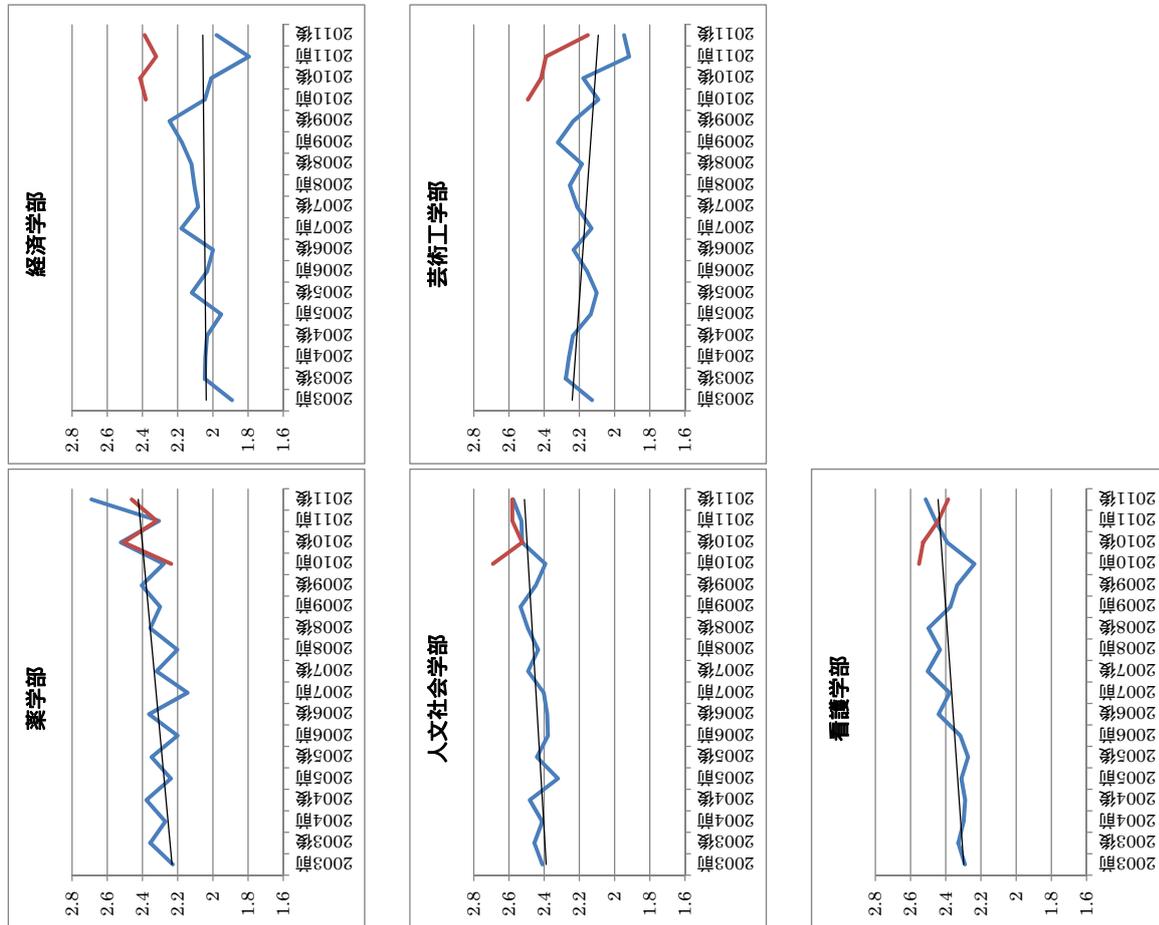
【F①】経済学部と芸術工学部で"優"が少なく、"不可"が多い

【F②】経済学部は"秀"が多いが、"優"が少ない。"不可"は芸術工学部、経済学部、薬学部の順に多い。

資料 1 : GPAで測った1年次の成績(横軸)と最終(卒業時)成績(縦軸)の関係



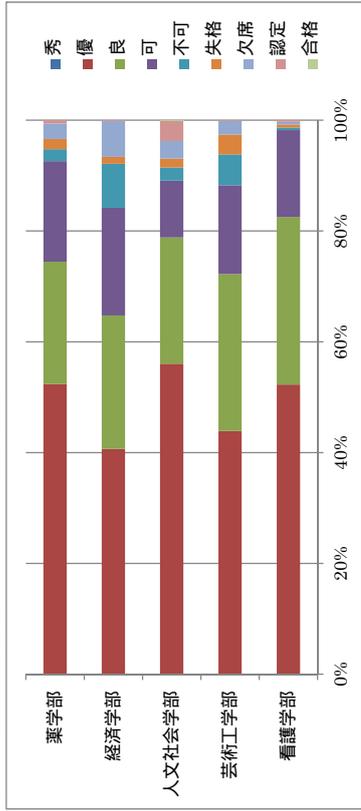
資料 2：学期別平均GPA



資料 3：学部別成績分布

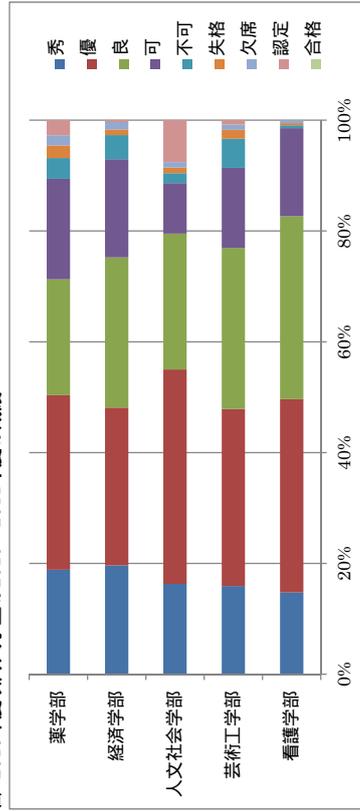
A. 全成績

(1) 2009年度以前入学生の2008～2011年度の成績



	秀	優	良	可	不可	失格	欠席	認定	合格
薬学部		52.4%	22.1%	18.1%	2.2%	1.8%	2.8%	0.6%	
経済学部		40.7%	24.1%	19.4%	7.9%	1.3%	6.5%	0.2%	
人文社会学部		56.0%	22.8%	10.2%	2.4%	1.6%	3.2%	3.8%	0.0%
芸術工学部		43.9%	28.3%	16.0%	5.6%	3.6%	2.5%	0.1%	
看護学部		52.3%	30.3%	15.7%	0.4%	0.6%	0.5%	0.3%	

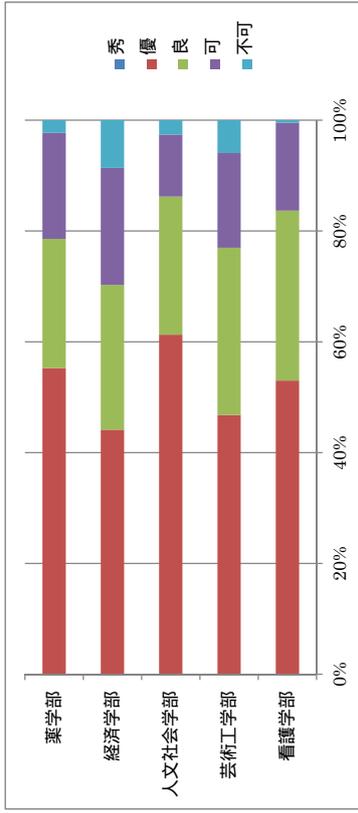
(2) 2010年度以降入学生の2010～2011年度の成績



	秀	優	良	可	不可	失格	欠席	認定	合格
薬学部	18.8%	31.5%	20.9%	18.1%	3.8%	2.3%	1.8%	2.7%	
経済学部	19.6%	28.5%	27.1%	17.7%	4.3%	1.0%	1.3%	0.3%	
人文社会学部	16.3%	38.7%	24.5%	9.1%	1.8%	1.0%	1.0%	7.6%	
芸術工学部	15.9%	31.9%	29.1%	14.4%	5.2%	1.6%	1.0%	0.8%	
看護学部	14.8%	34.9%	33.0%	15.9%	0.5%	0.4%	0.5%	0.0%	

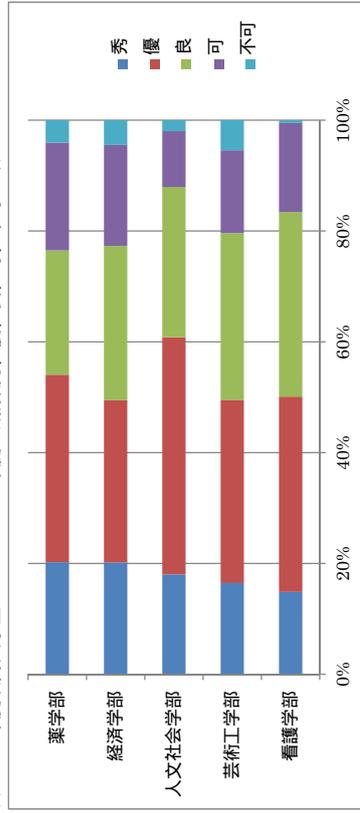
B. 全成績（秀、優、良、可、不可のみ）

(1) 2009年度以前入学生の2003～2011年度の成績(秀、優、良、可、不可のみ)



学部	秀	優	良	可	不可
薬学部	0.0%	55.3%	23.3%	19.1%	2.3%
経済学部	0.0%	44.1%	26.1%	21.1%	8.6%
人文社会学部	0.0%	61.3%	24.9%	11.2%	2.6%
芸術工学部	0.0%	46.8%	30.2%	17.1%	5.9%
看護学部	0.0%	53.0%	30.7%	15.9%	0.4%

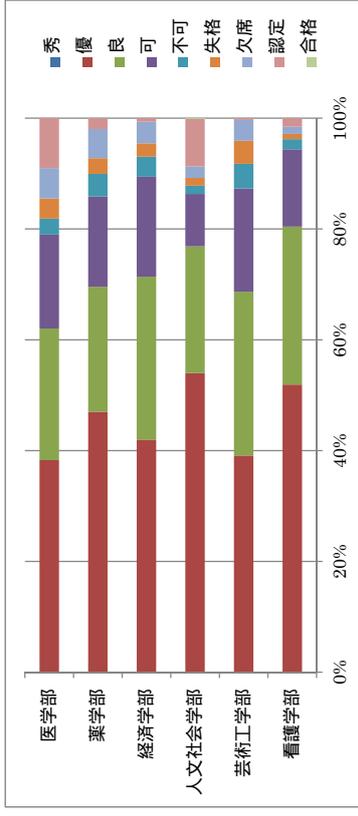
(2) 2010年度以降入学生の2010～2011年度の成績(秀、優、良、可、不可のみ)



学部	秀	優	良	可	不可
薬学部	20.2%	33.8%	22.5%	19.5%	4.0%
経済学部	20.2%	29.3%	27.9%	18.2%	4.5%
人文社会学部	18.0%	42.8%	27.1%	10.1%	2.0%
芸術工学部	16.5%	33.0%	30.1%	14.9%	5.4%
看護学部	14.9%	35.2%	33.3%	16.1%	0.5%

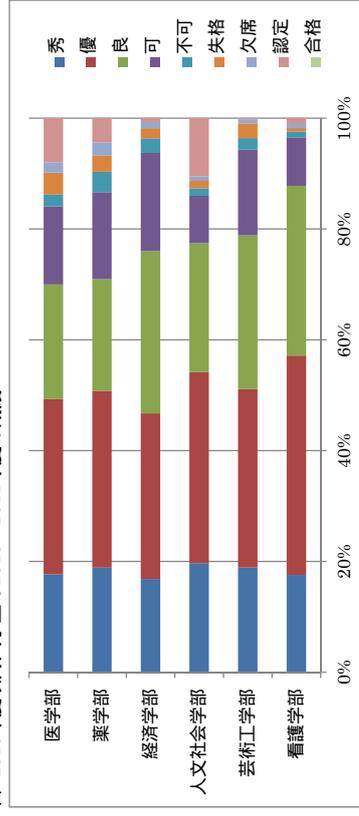
C. 教養教育の成績

(1) 2009年度以前入学生の2003～2011年度の成績



学部	秀	優	良	可	不可	失格	欠席	認定	合格
医学部	38.3%	23.8%	16.9%	2.9%	3.7%	5.5%	9.0%		
薬学部	47.0%	22.6%	16.3%	4.1%	2.8%	5.3%	2.0%		
経済学部	42.0%	29.4%	18.1%	3.6%	2.4%	3.9%	0.6%		
人文社会学部	54.0%	22.9%	9.5%	1.5%	1.4%	2.1%	8.7%		0.0%
芸術工学部	39.1%	29.6%	18.6%	4.5%	4.2%	3.7%	0.3%		
看護学部	51.9%	28.5%	14.0%	1.8%	0.9%	1.3%	1.5%		

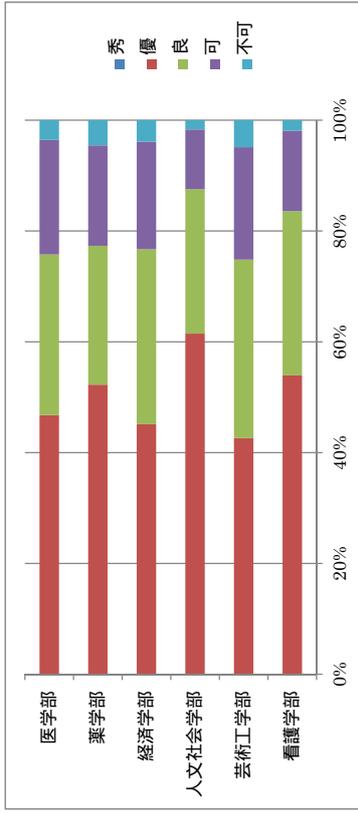
(2) 2010年度以降入学生の2010～2011年度の成績



学部	秀	優	良	可	不可	失格	欠席	認定	合格
医学部	17.7%	31.6%	20.7%	14.1%	2.1%	4.0%	1.8%	8.0%	
薬学部	18.9%	31.9%	20.1%	15.7%	3.7%	3.0%	2.3%	4.4%	
経済学部	16.8%	29.9%	29.3%	17.7%	2.6%	1.8%	1.1%	0.7%	
人文社会学部	19.7%	34.5%	23.3%	8.5%	1.4%	1.3%	0.8%	10.5%	
芸術工学部	18.9%	32.2%	27.7%	15.5%	2.1%	2.7%	0.7%	0.2%	
看護学部	17.6%	39.6%	30.7%	8.7%	1.0%	0.6%	0.7%	1.0%	

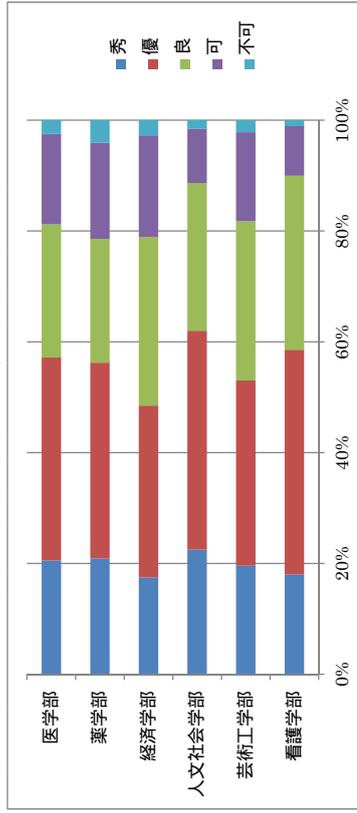
D. 教養教育の成績(秀、優、良、可、不可のみ)

(1) 2009年度以前入学生の2003～2011年度の成績(秀、優、良、可、不可のみ)



学部	秀	優	良	可	不可
医学部	20.7%	46.8%	29.0%	20.7%	3.5%
薬学部	18.1%	52.3%	25.1%	18.1%	4.5%
経済学部	19.4%	45.1%	31.6%	19.4%	3.9%
人文社会学部	10.8%	61.5%	26.1%	10.8%	1.7%
芸術工学部	20.3%	42.6%	32.2%	20.3%	4.9%
看護学部	14.5%	53.9%	29.6%	14.5%	1.9%

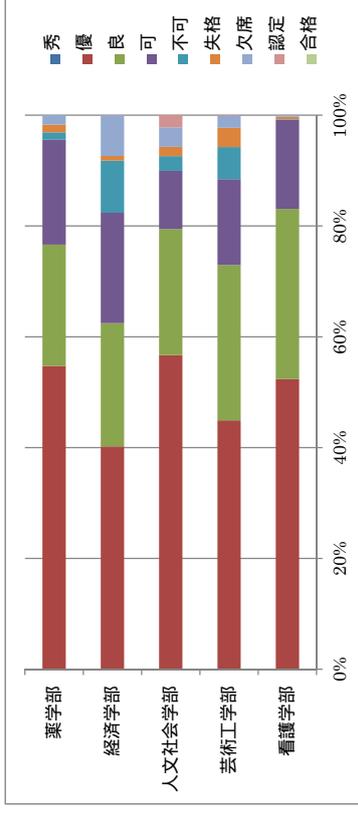
(2) 2010年度以降入学生の2010～2011年度の成績(秀、優、良、可、不可のみ)



学部	秀	優	良	可	不可
医学部	16.3%	36.7%	24.0%	16.3%	2.5%
薬学部	17.4%	35.3%	22.3%	17.4%	4.1%
経済学部	18.3%	31.0%	30.4%	18.3%	2.7%
人文社会学部	9.8%	39.5%	26.7%	9.8%	1.6%
芸術工学部	16.0%	33.4%	28.8%	16.0%	2.2%
看護学部	9.0%	40.6%	31.4%	9.0%	1.1%

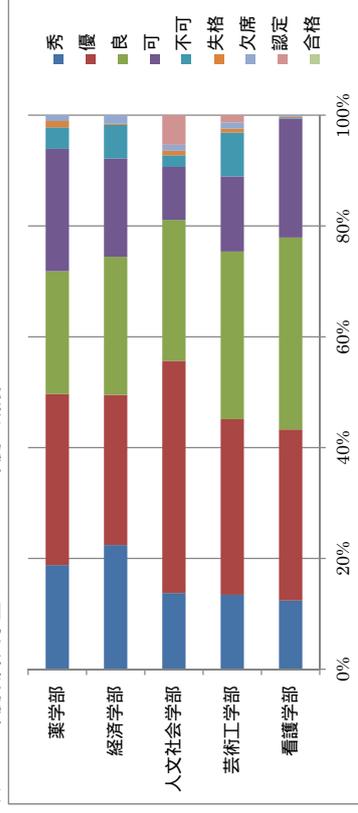
E. 専門教育の成績

(1) 2009年度以前入学生の2003～2011年度の成績



学部	秀	優	良	可	不可	失格	欠席	認定	合格
薬学部	54.7%	21.9%	19.0%	1.3%	1.4%	1.7%	1.7%	0.0%	
経済学部	40.2%	22.2%	19.9%	9.4%	0.9%	7.3%	0.0%		
人文社会学部	56.7%	22.8%	10.5%	2.7%	1.7%	3.5%	2.2%		
芸術工学部	44.9%	28.1%	15.5%	5.8%	3.5%	2.2%	0.1%		
看護学部	52.4%	30.7%	16.1%	0.1%	0.5%	0.3%			

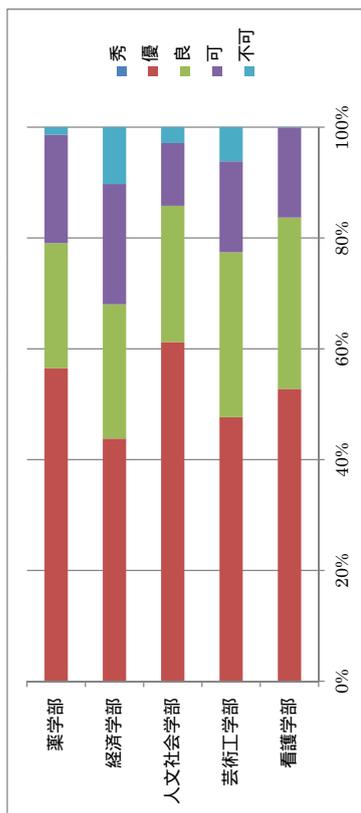
(2) 2010年度以降入学生の2010～2011年度の成績



学部	秀	優	良	可	不可	失格	欠席	認定	合格
薬学部	18.8%	30.9%	22.2%	22.1%	3.9%	1.1%	1.0%		
経済学部	22.4%	27.1%	24.9%	17.8%	6.0%	0.2%	1.5%		
人文社会学部	13.8%	41.9%	25.4%	9.6%	2.1%	0.8%	1.1%		5.3%
芸術工学部	13.4%	31.7%	30.3%	13.6%	7.9%	0.7%	1.2%		1.3%
看護学部	12.4%	30.9%	34.6%	21.5%	0.1%	0.2%	0.3%		

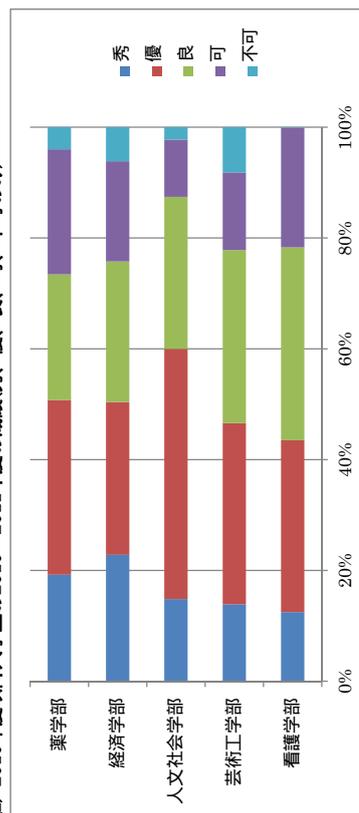
F. 専門教育の成績（秀、優、良、可、不可のみ）

(1) 2009年度以前入学生の2003～2011年度の成績(秀、優、良、可、不可のみ)



	秀	優	良	可	不可
薬学部		56.5%	22.6%	19.6%	1.4%
経済学部		43.8%	24.2%	21.7%	10.3%
人文社会学部		61.2%	24.6%	11.3%	2.9%
芸術工学部		47.7%	29.8%	16.4%	6.2%
看護学部		52.8%	30.9%	16.2%	0.1%

(2) 2010年度以降入学生の2010～2011年度の成績(秀、優、良、可、不可のみ)



	秀	優	良	可	不可
薬学部	19.2%	31.6%	22.7%	22.6%	4.0%
経済学部	22.8%	27.6%	25.4%	18.1%	6.1%
人文社会学部	14.8%	45.2%	27.4%	10.3%	2.3%
芸術工学部	13.9%	32.7%	31.2%	14.0%	8.2%
看護学部	12.5%	31.0%	34.8%	21.6%	0.1%

【年度計画10】

【授業科目名】基礎演習Ⅰ (EGCK1021020)

Basic SeminarⅠ

【時間割名】基礎演習Ⅰ(E1207)

【時間割担当】神山真一

【実施期】前期 【単位数】2

【曜日・時間】月・2

【対象学生】経済(1年次) 経済公共政策(1年次) 経済マネジ(1年次) 経済会計(1年次)

□ ■ 授業の目的・目標

大学での勉強は、高校までのように与えられた教材・課題にしたがって思考を重ねるアプローチより、より能動的に自ら課題を探し出してオリジナルな成果をあげるようなアプローチが中心となります。そこで本講義は、大学での勉強に適した学び方や技法(ラーニング・スキル)を身につけることを目的とします。自分のアイデアや考え方を表現し、教員や他の学生たちと共有し、そしてディスカッションなどを通じて相互に高めあえるよう、みなで学びましょう。

□ ■ 学習到達目標

- ・基本的なリテラシー(読解、説明、討論)の獲得
- ・基本的な情報処理スキルの習得
- ・名古屋市の学生として必要なポータルサイトの活用
- ・図書館やウェブサイトを中心とした文献検索スキルの習得
- ・2年次の学科選択に関する理解度の向上
- ・将来のキャリア形成に向けた意識の向上

□ ■ 授業概要

上記の学習到達目標にしたがって、まず一定の知識・情報を伝達します。次に、それらをもちいて実践的な演習をします。受身的なレクチャーでの理解から、より自発的・積極的な成果の獲得を目指します。また、13・14回はリクルート社によるキャリア講習を実施します。大学卒業後の進路選択に関するさまざまな情報を提供し、皆さんにキャリア形成の意識を高めてもらいます。なお、カリキュラムの編成上、9クラス共通の画一的な授業計画を設定できませんが、以下の標準的なスケジュールに沿って進みます。なお、詳細はクラス担当教員により講義中にお伝えします。

□ ■ 授業計画

1. イントロダクション
- 2～3. リテラシー(情報/図書)
- 4～6. ライティング/リサーチ
7. 中間報告
- 8～11. ディスカッション/プレゼンテーション
12. 報告会・プレゼンテーション
- 13～14. キャリア講習
15. 学科説明会

□ ■ 成績判定基準

出席：50%、演習への参加度(レポート、課題等を含む)：50%
*定期試験は行いません

□ ■ 教科書・テキスト

クラス担当教員によります。

□ ■ 参考文献

□ ■ 履修要件

□ ■ 履修上の注意事項

□ ■ 履修者への要望事項
なによりも継続的な出席と積極的な参加が重要です。高い意識をもって取り組ましましょう。

□ ■ 連絡先・オフィスアワー

講義中にお伝えします。
講義中にお伝えします。

□ ■ 備考

講義サイトへは
学抽トップ>学部生の方へ>経済学部e-learningシステム
から入ってください。

【授業科目名】 基礎演習Ⅱ (EGCK102/2020) Basic Seminar II
【時間割名】 基礎演習Ⅱ (E1282)
【時間割担当】 森徹
【実施期】 後期 【単位数】 2
【曜日・時限】 月・2
【対象学生】 経済公共政策(2年次) 経済マネジ(2年次)

■ **授業の目的・目標**
 入門経済学Ⅰ等で学び、経済学ないしは経営学の広い分野に応用できるミクロ経済学の内容を、演習問題を解くことを通じて、よりよく理解することを目的とする。また、演習問題の解法を受講者自らが解説することにより、プレゼンテーション能力の向上を図ることも目標である。

■ **学習到達目標**
 ミクロ経済学の基本事項に関する演習問題を解く能力を養い、解法についてわかり易く説明する力を身につけることが到達目標である。

■ **授業概要**
 ミクロ経済学の基本的事項について、(1)講師による概念・理論の解説と例題の解説の説明、(2)受講者によるHomework問題の解説と解法の説明、という2回1セットで授業を進めて行く。また、学期中に2～3回「確認テスト」を行い、受講者の理解の程度を確認する。なお、最終2回には、他の基礎演習Ⅱのクラスと合同で、「キャリア講習」を実施する予定である。

■ **授業計画**
 授業計画の概要は以下の通りであるが、シラバスの以下の部分は、今後改訂する可能性がある。
 1. 消費者行動1 (理論の解説と例題の解説)
 2. 消費者行動2 (受講者による Homework問題の解説と解説)
 3. 生産者行動1 (理論の解説と例題の解説)
 4. 生産者行動2 (受講者による Homework問題の解説と解説)
 5. 競争市場均衡1 (理論の解説と例題の解説)
 6. 競争市場均衡2 (受講者による Homework問題の解説と解説)
 7. 確認テスト1とその解答
 8. 不完全競争1 (理論の解説と例題の解説)
 9. 不完全競争2 (受講者による Homework問題の解説と解説)
 10. 外部性と公共財1 (理論の解説と例題の解説)
 11. 外部性と公共財2 (受講者による Homework問題の解説と解説)
 12. 確認テスト2とその解答
 13. 確認テスト2とその解答
 14. キャリア講習1
 15. キャリア講習2

■ **成績判定基準**
 授業への参加 (70%)、確認テストの成績 (30%)。演習であるので、期末試験は行わないが、正当な理由なくして、出席率が70%未満となった場合には失格となる。

■ **教科書・テキスト**
 未定 (指定しないが、参考文献欄の書籍のいずれかをテキストとする)

■ **参考文献**
 ・武隈慎一著『演習ミクロ経済学』、新井社、1994年、2,520円
 ・奥野正寛編著『ミクロ経済学演習』、東大出版会、2008年、2,100円
 ・井堀利宏著『ミクロ経済学演習』、新井社、2001年、2,310円

■ **履修要件**
 ■ **履修上の注意事項**
 ■ **履修者への要望事項**

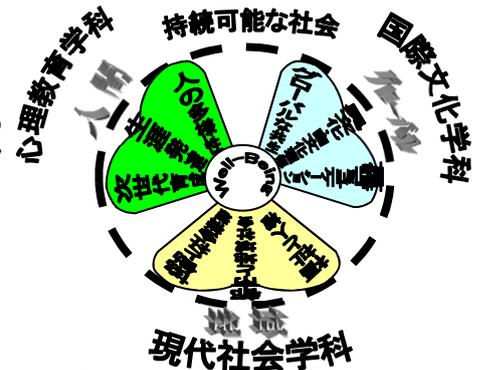
■ **連絡先・オフィスアワー**
 mori@econ.nagoya-cu.ac.jp
 金曜日 12時～1時
 事前に、上記メールアドレスに連絡して下さい。
 事前に連絡があれば、オフィスアワー以外でも対応します。

■ **備考**

人文社会学部の改革の概要

1. ESD理念を中心に学部教育の再編成

学部設立(1996年)理念「well-being」をESD(Education for Sustainable Development)「持続可能な地域社会と地球社会をつくる教育」として展開し、人文社会学部を本学におけるESDの推進拠点として発展させる。

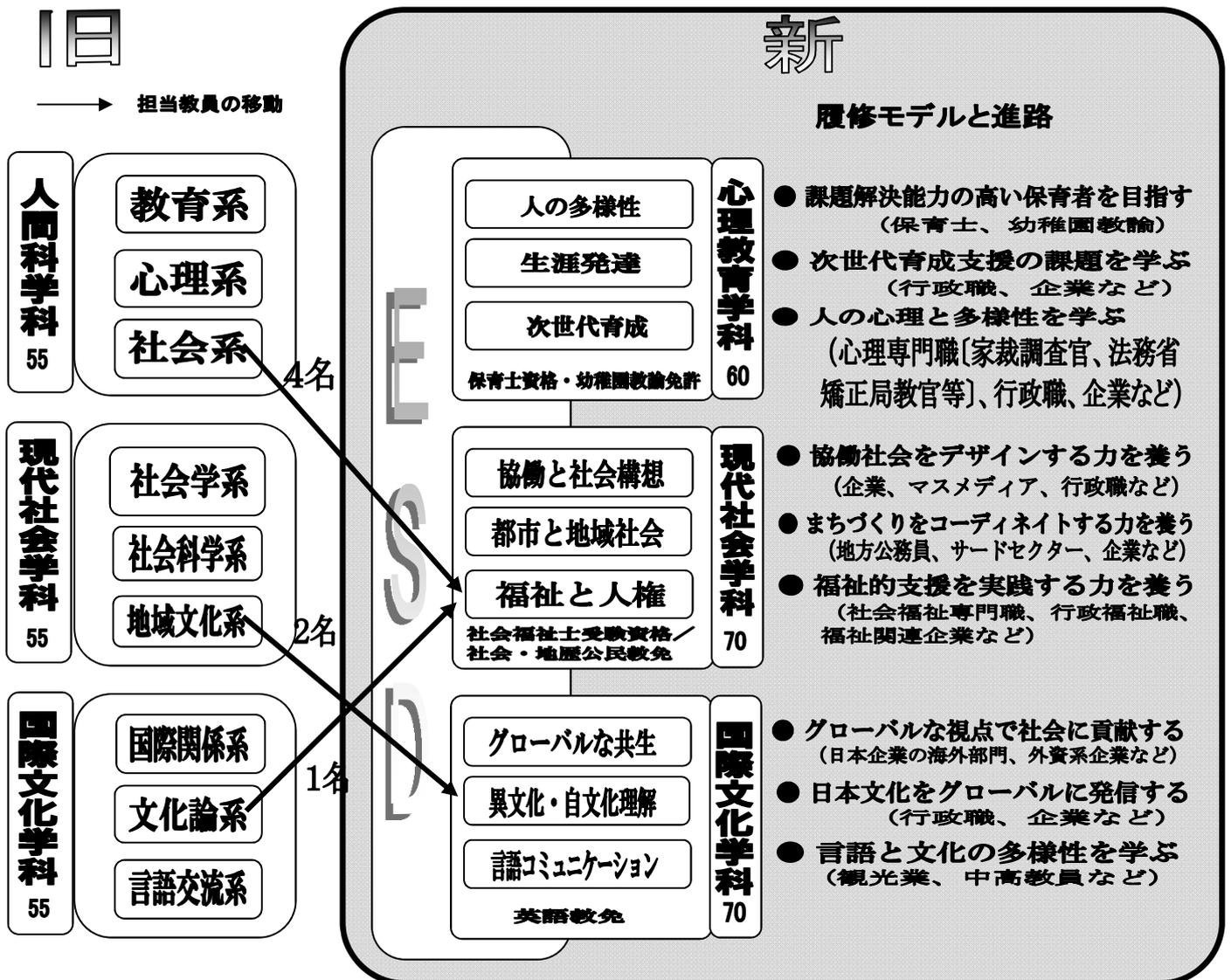


心理教育学科： 人の多様性を理解して、生涯発達の支援・次世代育成に取り組む人材を養成する。

現代社会学科： 社会福祉を新たに教育の柱の一つとし、調査分析能力に基づいてあるべき社会を構想し、地域社会の発展や協働・福祉に貢献する人材を育成する。

国際文化学科： 言語コミュニケーション能力を持ち、文化多様性を尊重しながら、グローバルに活躍する人材を育成する。

2. 再編による三学科の有機的組織化



学生収容定員 660人
教員 43人

学生収容定員 800人
教員 46人

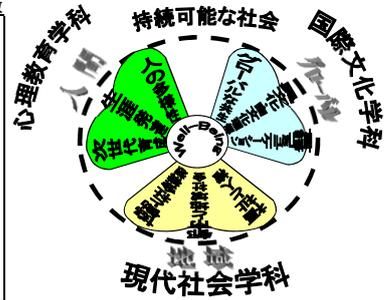
人文社会学部のカリキュラム改革の概要



学部共通の基礎科目をESD科目として質量ともに充実させ、三学科のカリキュラム構造を統一させ、ESD理念がカリキュラムの全体に統一的に展開され

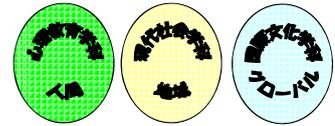
人間科学科	現代社会学科	国際文化学科
基礎科目 生涯人間科学論 現代日本社会論 国際文化概論 共生論		
		2科目履修

心理教育学科	現代社会学科	国際文化学科
基礎科目(ESD科目) 多様性理解の心理・教育 次世代育成の教育論 多文化共生の心理学 ジェンダーで見る現代社会 持続可能な日本社会論 現代社会と福祉 グローバル社会と文化変容 共生のコミュニケーション 世界の中の日本文化		
		単位数 10



基礎科目	基幹科目	基幹科目
	問題認識科 学科基礎1 学科基礎2	

基礎科目	基幹科目	基幹科目	単位数
			12



展開科目	展開科目	展開科目
心理系		関係系科目群
教育系		地域系科目群
社会系		交流系科目群

展開科目	展開科目	展開科目	単位数
人の理解	理論と技法	グローバルな共生	28
人を育む	社会構想と行政	異文化・自文化理解	
生涯発達と環境	都市と地域社会	言語コミュニケーション	
心理・教育の技法	福祉と人権	フィールドワーク	



関連科目	関連科目	関連科目

関連科目+自由選択科目			単位数
狭義の関連科目 (学科指定)	狭義の関連科目 (学科指定)	狭義の関連科目 (学科指定)	
他学科・他学部開講科目			

演習		
基礎演習(1年前)	基礎演習(1年後)	基礎演習(1年前)
心理統計法演習(2年前後)	発展演習(2年後)	発展演習(2年後)
人間科学基礎演習(2年前)	専門演習1(3年前)	専門演習1(3年前)
人間科学特別演習(4年前後)	専門演習2(3年後)	専門演習2(3年後)
	専門演習3(4年前)	専門演習3(4年前)
	専門演習4(4年後)	専門演習4(4年後)
卒業論文		

演習			単位数
基礎演習(1年前) academic skill			
発展演習(2年後)	発展演習(2年後)	発展演習(2年後)	2
専門演習1(3年前)	専門演習1(3年前)	専門演習1(3年前)	2
専門演習2(3年後)	専門演習2(3年後)	専門演習2(3年後)	2
専門演習3(4年前)	専門演習3(4年前)	専門演習3(4年前)	2
専門演習4(4年後)	専門演習4(4年後)	専門演習4(4年後)	2
卒業論文			8

合計

合計

96

「豊かで人間らしい生き方のための
持続可能な地域社会と地球社会を

つくる教育(ESD)」を実現する
ために、学部・学科の教育を
再編成し、「人間科学科」を
「心理教育学科」へ
名称変更します。

2013年
4月

学生募集の
人員を増員し、
全3学科で推薦入試を
実施します。



名古屋市立大学
人文社会学部
が新しくなります！

ESD

心理教育学科

- 人の多様性
- 生涯発達
- 次世代育成
- 保育士資格・幼稚園教員免許

現代社会学科

- 協働と社会構想
- 都市と地域社会
- 福祉と人権
- 社会福祉士受験資格 / 社会・地歴・公民教員免許

国際文化学科

- グローバルな共生
- 異文化・自文化理解
- 言語コミュニケーション
- 英語教員免許

◇「人間科学科」を心理と教育に重点を置いた「心理教育学科」へ名称変更し、人の多様性理解、生涯発達の支援・次世代育成について教育します。「現代社会学科」は社会福祉を新たに教育の一つの柱に加え、調査分析能力に基づいてあるべき社会を構想し、地域社会の発展と協働・福祉について教育します。「国際文化学科」は言語コミュニケーション能力を養成し、異文化・自文化の理解とグローバルな共生について教育します。

◇学部共通の基礎科目(ESD:Education for Sustainable Development 科目)を設置し、「人間」「地域」「地球」「グローバル社会」という側面から、人間的な豊かさの持続可能性を探究する教育を学部全体として展開します。

◇4学年の総定員を800名(1学年あたり200名)へ増員し、前期・後期入試の募集定員を増員するとともに、すべての学科で推薦入試、帰国子女・外国学校出身者入試、私費外国人留学生入試と編入学入試を実施します。

学部	学科	入試日程	変更前 (平成 24 年度入試)		変更後 (平成 25 年度入試)
			募集人員	入学定員	
人文社会学部	心理教育学科 (平成 25 年 4 月名称変更)	推薦入試 A			5名
		前期日程	40名	155名	42名
		後期日程	10名		12名
		帰国子女・外国学校出身者 私費外国人留学生			若干名 若干名
	現代社会学科	推薦入試 A			5名
		前期日程	40名		50名
		後期日程	10名		12名
		帰国子女・外国学校出身者 私費外国人留学生			若干名 若干名
	国際文化学科	推薦入試 A	5名		6名
		前期日程	40名		45名
		後期日程	10名		12名
		帰国子女・外国学校出身者 私費外国人留学生	合わせて若干名		2名 3名

第3年次編入学入試

学部	変更前 (平成 25・26 年度入試)				変更後 (平成 27 年度入試)		
	学科	募集人員	(うち社会人特別選抜)		学科	募集人員	(うち社会人特別選抜)
人文社会学部	人間科学科	10名		→	心理教育学科	2名	
	現代社会学科	10名	3名以内		現代社会学科	6名	3名以内
	国際文化学科				国際文化学科	4名	3名以内

【年度計画 19】

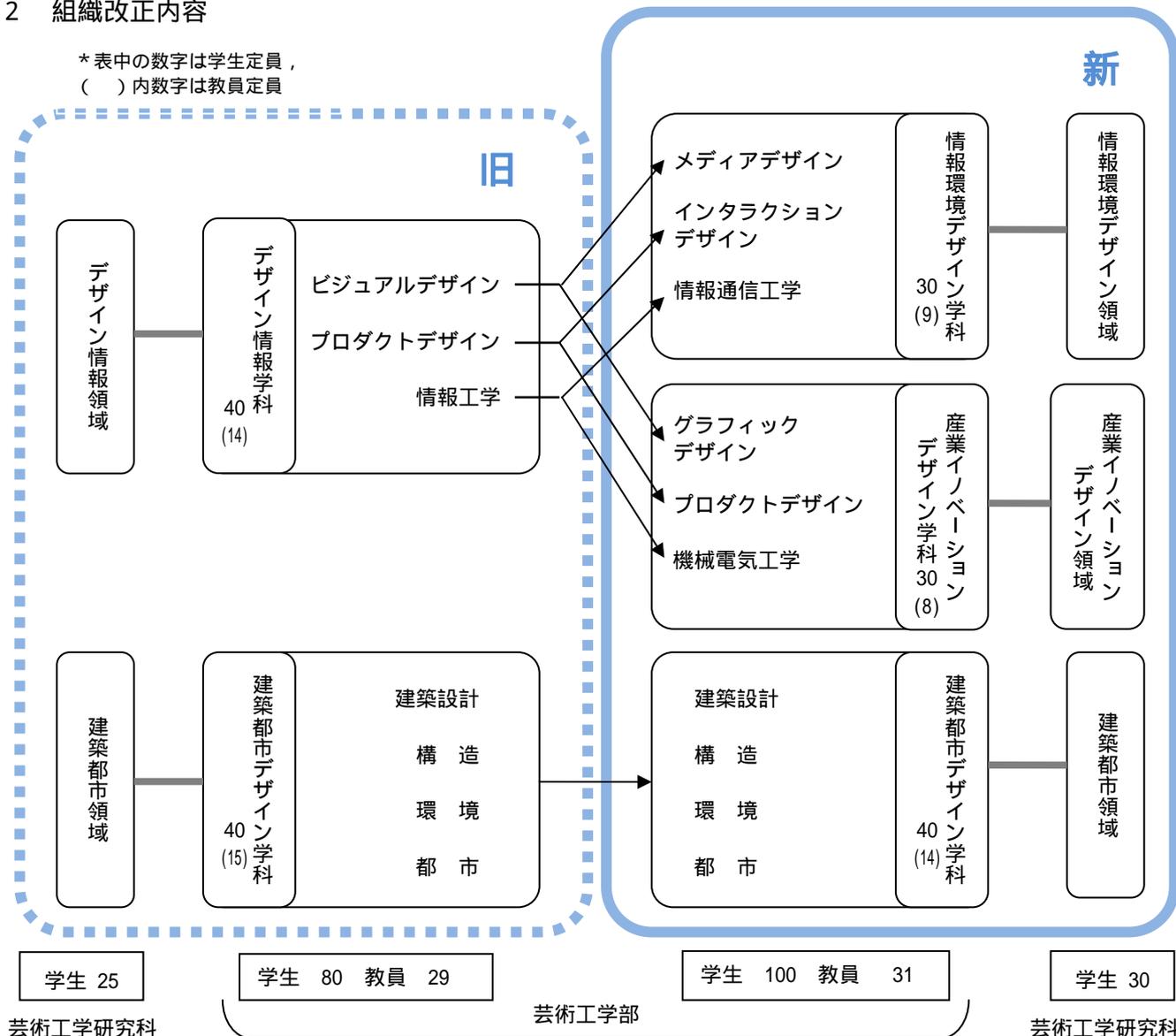
芸術工学部及び芸術工学研究科の組織改正について（概要）

芸術工学事務室

1 概要

平成 24 年 4 月 1 日から市立大学芸術工学部のデザイン情報学科を情報環境デザイン学科と産業イノベーションデザイン学科とし、現行の 2 学科から 3 学科へ組織改正し、研究科とあわせ学生定員の変更を行いました。

2 組織改正内容



3 組織改正理由

近年、著しく成長しているメディアデザイン、インタラクションデザイン、情報通信工学の分野を情報環境デザイン学科として設置し、分野の成長に合わせた、当該分野に特化した教育・研究を行うことにより、教育・研究体制を強化する。

デザイン情報学科を情報環境デザイン学科と産業イノベーションデザイン学科の 2 学科とすることで、専攻内容をより専門化して学部の教育内容がより明確になり、受験生の芸術工学部への受験志願を容易にする。

学科の組織改正により、学生の将来の目指す進路を、主に情報環境デザイン学科は新規分野のベンチャー企業、産業イノベーションデザイン学科は企業デザイン部として明確化することで、学生の就学意欲を高める。

平成 8 年度の学部設立から 16 年を経過することとなる平成 23 年度末に、学部設立当初から在職する 4 名の教員が定年退職することとなるので、社会情勢の変化にあわせて学部の今後のあり方を再考し、そのために必要な分野の教員を補充する。

博士前期課程・修士課程の専攻別ポリシー（案）

専攻	ポリシー	カリキュラム・ポリシー
大学院共通	<p>大学院課程共通に、研究が高い倫理性と強い責任感をもって実施され、人や自然との共生にかなったものとなっているかどうか、修了の際に考慮されるべき重要な点となる。</p> <p>博士前期課程ないし修士課程にあつては、各研究科所定の期間に在学し、各研究科が教育の理念と目的に沿って設定した授業科目を履修して、各研究科の履修規程により定められた科目及び単位数を修得することが、学位授与の要件である。さらに、必要な研究指導を受けた上で、修士学位論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することが必要である。</p> <p>博士前期課程ないし修士課程にあつては、幅広い視野に立った学識を備え、専門分野における研究能力又は高度な専門性を必要とする職業を担うために必要な能力を身につけているかどうか、課程修了の基準となる。</p> <p>博士後期課程ないし博士課程にあつては、各研究科所定の期間に在学し、各研究科の履修規程により定められた科目及び単位数を修得すること、及び、各研究科の教育と研究の理念と目的に沿って実施される研究指導を受け、所定の期間内に博士学位論文の審査及び最終試験に合格することが、学位授与の要件である。</p> <p>博士後期課程ないし博士課程にあつては、研究者として自立して研究活動を行い、高度な専門的業務に従事するために必要な能力と学識を身につけているかどうか、課程修了の基準となる。</p>	<p>医学研究科修士課程のカリキュラムは、学生が将来、医学関連の高度専門領域で活躍するための能力を確実に身につけることができるように、系統的に編成されている。学生は課程修了までに、共通教育科目10単位、専門教育科目10単位、専門演習2単位、特別研究8単位を取得することが求められる。1年次には全科目必修の共通教育科目が開講され、最先端の医学・医療および生命科学領域の幅広い知識の習得が目指される。これに並行し、1年次から2年次にかけて開講される選択制の専門教育科目では、論文知読等により学位論文の研究題目の関連分野について最先端の知識を学ぶ。研究指導教員は入学後6月末までに決定し、以後、学生は指導教員の専門分野に所属して教育を受ける。学生個別に立てられた研究指導計画に基づき、1年次の専門演習では、特別研究の課題遂行に必要な基本的概念および研究手技を身につけ、2年次の専門演習ではより深化した指導を受ける。これに並行し、特別研究として実施される研究活動を通じて専門領域の科学技術および基本概念を習得し、学位論文を作成する。</p>
医学研究科	<p>医学研究科修士課程では、最先端の医学・医療及び生命科学領域に関する幅広い知識・能力を習得する。共通教育科目、専門教育科目における学習活動を通して、学生は医学の全体像と個々の学問領域の位置づけを把握し、また、専門演習、特別研究として研究活動を展開することにより、専門分野における本格的な研究を修得するとともに得られた結果をまとめる力を養う。これにより、研究者あるいは高度な専門的な技術者となるための能力を身につけることを目標とする。また、課程修了の際には、高い倫理性と強い責任感をもって、人々の福祉の向上に貢献する姿勢が涵養できているかについても考慮される。学位授与の必要要件は、本課程に2年以上在学し、共通教育科目10単位、専門教育科目10単位、専門演習2単位、特別研究8単位を取得し、さらに、学位論文を提出し、その論文の審査及び最終試験に合格することである。</p>	<p>医学研究科修士課程のカリキュラムは、学生が将来、医学関連の高度専門領域で活躍するための能力を確実に身につけることができるように、系統的に編成されている。学生は課程修了までに、共通教育科目10単位、専門教育科目10単位、専門演習2単位、特別研究8単位を取得することが求められる。1年次には全科目必修の共通教育科目が開講され、最先端の医学・医療および生命科学領域の幅広い知識の習得が目指される。これに並行し、1年次から2年次にかけて開講される選択制の専門教育科目では、論文知読等により学位論文の研究題目の関連分野について最先端の知識を学ぶ。研究指導教員は入学後6月末までに決定し、以後、学生は指導教員の専門分野に所属して教育を受ける。学生個別に立てられた研究指導計画に基づき、1年次の専門演習では、特別研究の課題遂行に必要な基本的概念および研究手技を身につけ、2年次の専門演習ではより深化した指導を受ける。これに並行し、特別研究として実施される研究活動を通じて専門領域の科学技術および基本概念を習得し、学位論文を作成する。</p>
創薬生命科学専攻	<p>1. 博士前期課程学生は同課程に2年以上在学して、必要単位(30単位)を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、学位論文を提出し、その論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。</p> <p>2. 薬学研究科論文審査会において選出された3名以上の審査委員は、審査委員会を構成して審査にあたり、その結果について主査である審査委員が「名古屋市立大学学位規定」の第10条に規定されている学位論文の内容の要旨等を論文審査会へ報告する。その際、「学位の授与についての意見」として可否のいずれかを明記しなければならない。</p> <p>3. 審査委員による可否の意見には、研究の位置づけの適切さ、問題設定とその解明の明確さ、データ取得の適切さと内容評価の適切さ、考察・論述の論理的・一貫性、文章表現のわかりやすさ、等の判断要素を総合的に考慮した上で、論文評価を合格と不合格の2段階で論文審査会へ報告し、最終審査の原案とそして提案する。以上のディプロマ・ポリシーはすべて、薬学部出身者以外の卒業生についても該当する。</p>	<p>創薬生命科学専攻では、物質科学・生命科学の基礎知識を充実させるとともに、最新の知識と技術を獲得し、さらに研究課題に取り組み過程で、高い問題解決能力を涵養するためのカリキュラムを組んでいる。このため、座学としては、基礎科目、専門科目、特別講義科目をそろえている。基礎科目である創薬生命科学基礎 - の4科目(各1単位)は、専門の学習・研究をすすめる基礎を修得するものであり、薬学以外の学部出身者にとつては、創薬関連の学習や研究に支障なく取り組みするための導入教育としても位置づけられるにもなるよう配慮している。その上で、専門科目として21の特論(各1単位)を通して、専門知識および最新の研究成果や技術を修得する。さらに3つの特別講義科目(各1単位)では、外部講師による講義により、幅広い分野の研究やトピックスについて学習し、視野を広げ、新たな発想源として役立たせる。特別演習(8単位)は創薬生命科学及び関連領域における研究の遂行に必要な技術や知識を多方面から演習形式により修得するとともに、セミナーや学会形式をとり複数の指導者が参加することにより情報共有と討論による研究の活性化、プレゼンテーション能力、討論能力の涵養を図る。特別研究(8単位)では、創薬生命科学及びその他の薬学領域の学問を基礎とした創薬研究および修士論文作成の指導を行う。この過程で様々な研究手法・解析手法や科学的思考法を学習し、研究者としての基礎を築く。</p>
薬学研究科		<p>創薬生命科学専攻では、物質科学・生命科学の基礎知識を充実させるとともに、最新の知識と技術を獲得し、さらに研究課題に取り組み過程で、高い問題解決能力を涵養するためのカリキュラムを組んでいる。このため、座学としては、基礎科目、専門科目、特別講義科目をそろえている。基礎科目である創薬生命科学基礎 - の4科目(各1単位)は、専門の学習・研究をすすめる基礎を修得するものであり、薬学以外の学部出身者にとつては、創薬関連の学習や研究に支障なく取り組みするための導入教育としても位置づけられるにもなるよう配慮している。その上で、専門科目として21の特論(各1単位)を通して、専門知識および最新の研究成果や技術を修得する。さらに3つの特別講義科目(各1単位)では、外部講師による講義により、幅広い分野の研究やトピックスについて学習し、視野を広げ、新たな発想源として役立たせる。特別演習(8単位)は創薬生命科学及び関連領域における研究の遂行に必要な技術や知識を多方面から演習形式により修得するとともに、セミナーや学会形式をとり複数の指導者が参加することにより情報共有と討論による研究の活性化、プレゼンテーション能力、討論能力の涵養を図る。特別研究(8単位)では、創薬生命科学及びその他の薬学領域の学問を基礎とした創薬研究および修士論文作成の指導を行う。この過程で様々な研究手法・解析手法や科学的思考法を学習し、研究者としての基礎を築く。</p>

博士前期課程・修士課程の専攻別ポリシー（案）

専攻	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
<p>研究科 経済学研究科 経済学専攻</p>	<p>(研究科共通) 1. 博士前期課程では、幅広く深い知識を備え、専攻分野である経済学・経営学における研究能力と、高度な専門性を必要とする職業を担うための優れた能力とを身につけているかどうか、課程修了の基準となる。 2. 定められた期間在学して、教育理念・教育目標に基づいて開設されている専門科目について所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して論文審査および最終試験に合格することが学位授与の条件である。 3. 上記のほか、定められた期間在学して、教育理念・教育目標に基づいて開設されている専門科目について所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、特定の課題についての研究報告書(「リサーチ・ペーパー」)2編を提出し、その審査および最終試験に合格することが学位授与の条件である。 4. 修了要件および申請の手続き等は履修要項で学生に示されている。また、修士論文および特定の課題についての研究報告書(「リサーチ・ペーパー」)の評価基準は、「学位論文の評価基準」に示されている。 5. なお、上記における「定められた期間」は通常2年以上を指すが、国公私立大学間単位互換制度、他大学院等での既修得単位や入学前既修得単位の認定制度を活用して所定の単位を修得し、優れた学業成績を収めた者については、1年間で課程を修了することが認められている。もちろん、この場合においても、修士学位論文あるいは研究報告書(「リサーチ・ペーパー」)2編の提出とその審査および最終試験に合格することが学位授与の条件である。</p>	<p>(経済学専攻) 名古屋私立大学大学院経済学研究科の基本的な教育理念は経済学や経営学に関する広範で豊かな知識や教養を備えた社会人ならびに高度な専門知識を有する研究者の養成に努め、経済、経営上の諸問題に柔軟かつ的確に対応できる高度な専門性を持つ人材を社会に送り出すことである。この研究科の理念を実現するために、経済学専攻では次のような方針にしたがってカリキュラムを作成している。 1. 高度な専門知識を確かなものとするために、研究科の専門科目を、主としてミクロ経済学・マクロ経済学の理論的発展を目指す「経済理論系」、財政・金融政策にかかわる実践的問題を主たる研究対象とする「経済政策 I 系」、国際経済政策・産業政策などの望ましいあり方を主たる研究対象とする「経済政策 II 系」、そして、主として経済システムの様態性とそれらの変化を追究しようとする「制度・歴史系」の四つの系に大別してカリキュラムを構築している。 2. 授業科目は上記の各系の科目として開設されているが、全ての授業科目が選択可能となっており、学生の自主的な知識・能力の展開を可能なものとし、経済社会の変化に対応して学生自身の専門性を広げることが可能にしている。 3. 他方、分化された専門的視野だけでなく、より広い視野から経済学の知識を見渡し、他の関連領域(系)との有機的結びつきを持つように、経済学専攻共通の基礎科目として、「ミクロ経済学基礎」、「マクロ経済学基礎」および「計量経済学基礎」を開設しているほか、経営学専攻における学問領域との関連を意識できるように、「経営学原理」および「会計ファイナンス基礎」を開設している。 4. 各系の授業科目の履修を前提としたその領域の広い知識の蓄積とともに、各科目に設けられている演習において、実施調査や指導教員との共同研究等を通じて、学生自身が各自の研究課題をより深く追究できるように研究指導を行う体制を整えている。このような広い知見の修得と深い研究を、同時にしかも体系的に行うように、2年間で演習を必修が必修化されている。 5. 演習における研究指導は、指導教員の選択をはじめとして、基本的には各学生の入学時の研究計画に基づいて進められるが、学期進行に伴う研究の発展具合に応じては、研究指導体制(指導教員など)の変更も可能である。 6. さらに幅広い視野で学ぶ機会を提供するために、10 単位(5 科目)までを修了のための必要単位数に含めることで、経営学専攻の授業科目の履修を認めている。 7. 本研究科は社会人の受け入れに関し先駆的な大学院であるが、専門職大学院とは一線を画しており、学術研究志向の傾向が強く、少人数教育である演習では基本的に学生が自主的にテーマを選択し、複数の教員による指導と学生間の議論にもとづき、一定以上の学術的成果を上げられるような指導体制がとられている。 8. また、社会人のために、定められた期間を越えて一定の期間(3 年間)にわたり計画的に教育課程を履修し修了することが認められている(「長期履修制度」)。 9. 他方、国公私立大学間単位互換制度、他大学院等での既修得単位や入学前既修得単位の認定制度を活用し、かつ優秀な成績を収めた者には、1 年間で課程を修了する可能性も開かれている(「早期終了制度」)</p>

博士前期課程・修士課程の専攻別ポリシー（案）

専攻	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
経営学専攻		<p>(経営学専攻)</p> <p>名古屋立大学大学院経済学研究科の基本的な教育理念は経済学や経営学に関する広範で豊かな知識や教養を備えた社会人ならびに高度な専門知識を有する研究者の養成に努め、経済、経営上の諸問題に柔軟かつ的確に対応できる高度な専門性を持つ人材を社会に送り出すことである。この研究科の理念を実現するために、経営学専攻では次のような方針にしたがってカリキュラムを作成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度な専門知識を確実なものとするために、研究科の専門科目を、企業経営に関する様々な問題を解決する方法を探究する「経営系」、会計情報に関する諸問題を理論的・実証的に分析する「会計系」、企業の財務政策や戦略的問題に計量的手法で接近することを旨とする「ファイナンス・情報系」の三つの系に大別してカリキュラムを構築している。 2. 授業科目は上記の各系の科目として開講されているが、全ての授業科目が選択可能となっており、学生の自主的な知識・能力の展開を可能なものとなっている。よって、企業の経営環境の変化に対応して学生自身が問題の本質を見極め、処方箋を探るための専門性の孤張を可能にしている。 3. 他方、分化された専門的視野だけでなく、より広い視野から経営学に係る諸問題を考察するために、他の研究領域（系）と関連づけるべく、経営学専攻共通の基礎科目として、「経営原理」、「企業ファイナンス基礎」、「計量経済学基礎」を設置している。また、企業経営を取り巻く経済の諸問題についても理解を深めるべく、「ミクロ経済学基礎」、「マクロ経済学基礎」を開講している。 4. 各系の授業科目の履修を前提としたその領域の広い知識の蓄積とともに、各科目に設けられている演習において、実施調査や指導教員との共同研究等を通じて、学生自身が各自の研究課題をより深く追究できるように研究指導を行う体制を整えている。このような広い知見の修得と深い研究を、同時にしかも体系的に行いようように、2年間を通じて演習が必修化されている。 5. 演習における研究指導は、指導教員の選択をはじめ、基本的には各学生の入学時の研究計画に基づいて進められるが、学期進行に伴う研究の発展具合に応じては、研究指導体制（指導教員など）の変更も可能である。 6. さらにより広い視野で学ぶ機会を提供するために、10単位（5科目）までを修了のための必要単位数に含むことで、経済学専攻の授業科目の履修を認めている。 7. 本研究科は社会人の受け入れに関して先駆的な大学院であるが、専門職大学院とは一線を画しており、学術研究志向の傾向が強く、少人数教育である演習では基本的に学生が自主的にテーマを選択し、複数の教員による指導と学生間の議論にもとづき、一定以上の学術的成果を上げられるような指導体制がとられている。 8. また、社会人のために、定められた期間を越えて一定の期間（3年間）にわたり計画的に教育課程を履修し修了することが認められている（「長期履修制度」）。 9. 他方、国公立大学間単位互換制度、他大学院等での既修得単位や入学前既修得単位の認定制度を活用し、かつ優秀な成績を収めた者には、1年間で課程を修了する可能性も開かれている（「早期終了制度」）。 <p>本研究科の人材養成目的を達成するために、博士前期課程のカリキュラムは、課題研究科目と専門領域科目の二つの科目群で構成されている。</p> <p>「課題研究科目」は複数の教員と学生が共同で研究するという方式で、発表や討論を通じて研究を深め、課題に即した研究能力を獲得していくことができる。学生は、この方式により複数の教員から指導を受けることができ、課題研究科目は2年間を通じて履修する必修科目で、学生は所属する課題研究科目の1科目を履修し、2年間を通じて1・2単位を修得しなければならない。「課題研究科目」の1年次において、学生は課題研究科目の問題設定を認識し、課題研究の中で自分の研究テーマを練り上げ、課題研究に関する基礎的研究を推進する。2年次において、学生は自分の研究テーマを確立し、修士論文作成に関する適切な指導を複数の教員から受ける。「専門領域科目」は、課題研究科目の推進を基礎的側面、隣接的側面の両面から支援、展開させるための授業科目である。専門領域科目には、文科系、社会系、人間系の三つの分野の授業科目が設置されている。学生は、専門領域科目を2年間にわたって18単位以上修得しなければならない。</p>
経済学研究科		
人間文化専攻	<p>《人材の養成に関する目的》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度かつ先進的な国際水準の研究を行うことにより、次世代を担う若手研究者を育成し、また多様な経歴を持つ社会人の再教育を行うこと 2. 人文社会諸科学の高度な知識と研究能力を涵養して、地域と国際社会に対応できる人材、現代社会の諸問題について指導的な役割を果たすことができる人材、グローバルな視点とローカルな視点とを併せもつ高度専門職業人や研究者を育成すること 3. 地域と連携した研究・教育を推進すること <p>上記目的を踏まえ、博士前期課程にあっては、本研究科に2年以上在学して、専門領域科目を18単位と課題研究科目を12単位の必要最低単位数を修得することで、専門領域に関する高度な知識を身に看けるとともに課題に即した研究能力を獲得し、さらに修士論文の審査および試験に合格することが学位授与の要件である。なお修士論文の審査基準は、問題設定とその解明の適切さ、先行研究の適切さ、考察・論述の論理一貫性、文章表現の分かりやすさ、等の判断要素を総合的に考慮し、「専門分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力」を有していることである。</p>	
人間文化研究科		

博士前期課程・修士課程の専攻別ポリシー（案）

専攻	ディプロマ・ポリシー	キャリアグラム・ポリシー
芸術工学専攻	<p>1. 「技術」「感性」「人間理解」を軸に幅広い視野と教養、創造性豊かで高度な知識と技術を身につけた学生に対して、理論と実践を通じ持続可能な地域社会の構築に貢献できる専門的職業人を輩出する。</p> <p>2. 芸術工学専攻に2年以上在学し、芸術工学専攻が設定する教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修し、必修科目の全てとそれを含む30単位以上の修得が学位授与の要件である。</p> <p>3. 特別研究を履修し、学位授与の要件である。</p> <p>4. 最終試験は、公開で行い、芸術工学分野における専門的職業人として相応しい知識・技量・実践力を修得していることが合格の基準となり、3名の審査委員による論文および最終試験の審査、及び、教授会での審議により合否を決定する。</p>	<p>1. 科学技術の知識と専門的な実務経験を持つ設計家と技術者及び研究者を養成するために、専門科目、共通科目、特別研究で構成する。</p> <p>2. 一般大学院生には、理論と実務を関連付けるために実務を経験する学外実務プロジェクトを、社会人学生には、実務経験を踏まえた事例研究や課題研究を目的とする学内実務プロジェクトを共通科目として実施する。</p> <p>3. 社会人学生のために、授業の昼夜開講制と長期履修制を実施する。</p> <p>4. 情報環境デザイン領域は、インターフェースデザイン、映像・音響デザイン、テキスタイルデザイン、画像工学、情報通信工学、メディア工学、造形などの専門科目で構成する。</p>
看護学研究科	<p>大学院学則に基づき授業科目及び単位数の修得など規定にある要件を満たし、以下の能力を身に付けた学生に対して、「修士」（看護学の学位）を授与する。</p> <p>1. 人間の尊厳を理解し、広い視野に立ち、精深な学識を有している。</p> <p>2. 高度な職業倫理を有し、看護学・助産学の発展と探究に寄与し、保健・医療・福祉に貢献できる能力を有している。</p> <p>3. 修士論文コース（看護学領域および助産学領域）を修了する学生は、専攻する教育研究分野における問題や課題に積極的に取り組む研究・実践能力を有している。</p> <p>4. 専門看護師教育コースを修了する学生は、特定分野における実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究に卓越した能力を有している。</p> <p>5. 上級実践コース助産学分野を修了する学生は、助産師として高度な実践能力を有している。</p> <p>6. 加えて、修士論文あるいは課題研究の成果物の審査と最終試験では、研究目的（問題設定）、研究方法、実施、分析、考察の適切性、学術的発展性、倫理的配慮などの点で、修士の学位に相応する内容であると認められる必要がある。</p>	<p>看護学研究科博士前期課程では、看護学領域、助産学領域の実践現場における問題や課題に積極的に取り組む研究・実践能力を養う教育を提供する。</p> <p>1. 視野を広げ、精深な学識を付与するために、工夫を凝らした専攻支持科目群を配置する。ここには、看護学一般の知識の深化を促す科目、隣接諸科学の理論や技術に関わる科目、そして高い職業倫理観に関わる科目が含まれる。</p> <p>3. 専門的な研究能力の修得に必要な教育研究分野科目群を配置する。ここには、専攻する教育研究分野の特論、演習、特別研究（修士論文コース）/課題研究（専門看護師教育コース、上級実践コース助産学分野）が含まれる。また、幅広い専門的知識と柔軟な思考能力を修得するため主専攻分野以外の分野の特論の選択履修を可能とする。</p>
看護学専攻	<p>修士論文コース（看護学領域、助産学領域）では、教育研究分野において、優れた看護学・助産学の専門職者、教育者、研究者を養成するため、多様な人々の健康と福祉の実態を踏まえ、看護学・助産学の理論と実践を追求し、社会のニーズに積極的に応えられる能力の修得を図る。</p> <p>専門看護師教育コースでは、複雑で解決困難な看護問題をもつ個人・家族・集団に対して水準の高い看護ケアを提供し、高度な医療の進展に対応できる専門看護師を養成するため、特定の専門看護分野の知識・技術を深める科目群を配置する。</p> <p>上級実践コース助産学領域助産学分野では、</p> <p>1. 高度な専門性が求められる助産学領域において、その役割を担う卓越した能力を修得させるために、助産の応用発展となる科目群（助産の理論と実践の探求、卓越した助産技術、国際的な活動演習など）を配置する。具体的には、女性とその家族、母子の健康維持や健康を阻害する問題など、助産領域の社会的ニーズに応えられる研究能力と高度な実践力の育成を図る教育を提供する。</p> <p>2. 看護学の教育課程を終了した者に助産師の資格取得に要する助産の基礎となる科目群を配置する。具体的には、基礎助産学、周産期ケア、女性健康支援について、学習を深める教育を提供する。</p>	<p>看護学研究科</p>

博士前期課程・修士課程の専攻別ポリシー（案）

専攻	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
<p>システム自然科学研究科</p> <p>自然科学専攻</p>	<p>1．物質科学、生命科学、情報科学などの研究分野において幅広い知識を備え、専門分野における研究能力と高度な専門性を必要とする職業を担うための能力を身につけているかが課程修了の要件となる。</p> <p>2．博士前期課程にあっては、当研究科の定める期間在学し、研究科が教育と研究の理念や目的に沿って設定した授業科目を履修して基礎学力を身につけ、基準となる単位数以上を修得し、研究科が行う修士論文の審査に合格することが必要である。</p> <p>3．修士論文の審査においては、修士論文および修士論文発表会における発表と質疑応答によって判断し、可否の判定を行う。可否判定においては、以下の観点から審査を行う。</p> <p>(ア) 修士研究の目的、意義について明瞭に示されていること。</p> <p>(イ) 研究の方法、手段、実験法などが明瞭に示されていること。</p> <p>(ウ) 研究結果を正しく理解していること。</p> <p>(エ) 研究結果に関して明瞭な考察ができていること。</p> <p>(オ) 研究の達成度と今後の発展性が適切に示されていること。</p> <p>4．研究が高い倫理性と責任感をもって実施されているかも、大学院課程修了の際に考慮される。</p> <p>5．「修士の学位に関する内規」は履修要綱に明記している。</p>	<p>システム自然科学研究科自然科学専攻博士前期課程では、自然の原理の解明と、複雑な現代社会が抱える様々な問題の解決に、分野横断的な科学技術を駆使して取り組む人材を養成するために、次のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>共通科目 自然科学専攻に入学した学生がまず身につけて欲しい共通性の高い基礎知識を提供する。必修科目及び選択科目からなる。</p> <p>必修科目は、両系の学生が共通に習得すべき科目、2系のそれぞれにおいて導入的な効果をもたらす科目からなる。後者は、本専攻の研究分野をオムニバス形式で概観できる科目を含む。その履修によって本専攻が提供している教育研究内容の全体像を知り、以後の学習計画を各人が立てやすくなる効果を狙う。</p> <p>選択科目は、2系のそれぞれにおいて共通性の高い専門基礎科目である。自ら所属する系の科目にあっては、今後の学習の基礎となる大切な専門基礎科目であり、自分が所属しない系の科目にあっては、本専攻が目指す分野横断的な人材養成を達成するための貴重な学習機会となる。</p> <p>専門科目 専門科目は、システム自然科学研究科における各専門分野の学問体系を博士前期課程大学院生の学力レベルにおいて教授する選択科目である。研究の実践力を養うために、実験・野外調査・コンピュータプログラミング等の技術の訓練を行う実習科目もこれに含まれる。</p> <p>演習科目 各研究分野ごとの話題において、調査発表・討論のトレーニングをゼミ形式で行う必修科目である。特別研究</p> <p>特別研究は、指導教員による2年間（社会人学生にあっては2～3年間）の研究指導に基づき、その研究成果を論文にまとめるとともに口頭発表する必修科目である。研究指導は、年度始めに作成された研究指導計画書の内容に基づいて行われ、その成果は年度末の研究指導報告書に記される。</p> <p>(生命情報系) 生命のメカニズムや歴史、生物と環境との関わりなどを、最先端のバイオサイエンスやインフォマティクスを駆使して探求するために必要な基礎科目、専門科目を学ぶ。</p> <p>(自然情報系) 自然界における未知の現象の発見や、私たちが実社会において克服すべき問題点の解決などに、数学・物理学・化学さらに情報学などを駆使して取り組むために必要な基礎科目、専門科目を学ぶ。</p>

博士後期課程・博士課程の専攻別ポリシー（案）

専攻	カリキュラム・ポリシー
<p>大学院共通</p> <p>博士前期課程ないし修士課程にあっては、各研究科所定の期間在学し、各研究科が教育の理念と目的に沿って設定した授業科目を履修して、各研究科の履修規程により定められた科目及び単位数を修得することが、学位授与の要件である。さらに、必要な研究指導を受けた上で、修士学位論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することが必要である。</p> <p>博士前期課程ないし修士課程にあっては、幅広い視野に立った学識を備え、専門分野における研究能力又は高度な専門性を必要とする職業を担うために必要な能力を身につけているかどうか、課程修了の基準となる。</p> <p>博士後期課程ないし博士課程にあっては、各研究科所定の期間在学し、各研究科の履修規程により定められた科目及び単位数を修得すること、及び、各研究科の教育と研究の理念と目的に沿って実施される研究指導を受け、所定の期間内に博士學位論文の審査及び最終試験に合格することが、学位授与の要件である。</p> <p>博士後期課程ないし博士課程にあっては、研究者として自立して研究活動を行い、高度な専門的業務に従事するために必要な能力と学識を身につけているかどうか、課程修了の基準となる。</p>	<p>カリキュラム・ポリシー</p>
<p>大学院共通</p>	<p>医学研究科博士課程では、医学・医療における未解決の諸問題を独自の実験やデータ集積と解析により解決する能力の習得を目指し、その後医学・医療分野において世界に伍する超一流の研究者となる礎を身につける。そのために、講義学習により医学・医療全般のより深い知識と専門領域の最先端知識を獲得し、さらに研究活動を通じて専門領域の高度先進技術を習得し、研究探求心を育む。具体的には、できるだけ早期に共通科目、専門科目主科目及び副科目を受講し、特別研究を遂行する上で必要となる基礎的知識・技術の習得を目指す。特別研究は実践的研究活動を行うもので、指導教員の専門分野に所属して実施し、研究開始時に指導教員と学生との間で協議して作成した研究指導計画に基づき、国際欧文学術誌作成に必要な倫理性、独自性、創造性等に關わる研究能力を獲得する。博士課程3・4年次においては、課程修了要件となる国際欧文学術誌に公表する論文を作成するための研究成果に対する評価能力、成果に対するプレゼンテーション能力、英文論文作成能力を養う。</p>
<p>医学研究科</p>	<p>創薬生命科学専攻では、最先端の研究成果を挙げて学術論文として発表する過程を通じて、問題解決能力に加え課題設定能力を涵養するためのカリキュラムを組んでいる。特別演習（8単位）は創薬生命科学及び関連領域における研究の遂行に必要な技術や知識を多方面から演習形式により修得するとともに、セミナーや学会形式をとり複数の指導者が参加することにより情報共有と討論による研究の活性化、プレゼンテーション能力、討論能力、英語聞き取り・発表能力の涵養に務める。特別研究（12単位）では、創薬生命科学及びその他の薬学領域の学問を基礎とした創薬研究及び博士論文作成の指導を行う。この過程で様々な研究手法・解析手法や科学的思考法を学習し、単に問題を解決するだけでなく、独自に問題を発見し、解決に導くことのできる高い研究能力の涵養を図る。特別研究8単位、特別演習8単位、合計16単位を取得することが修了要件の一部である。</p>
<p>創薬生命科学専攻</p>	<p>1. 博士後期課程学生は同課程に3年（優れた研究業績を挙げたものにあつては2年）以上在学して、必要単位（16単位）を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、学位論文を提出し、その論文の審査及び最終試験に合格しなければならぬ。</p> <p>2. 薬学研究科論文審査会において選出された原則として4名の審査委員は、審査委員会を構成して審査にあたり、その結果について研究科論文審査会へ合否の報告をし、最終審査の原案として提案する。</p> <p>3. 審査委員による審査においては、当該論文が、研究の目的・方法・位置づけ等が明確であること、審査を有する国際学術誌等に原著として掲載され独創性が十分認められること、当該分野における学術的意義が十分に認められること、等の基準を満たし、「研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力」（名古屋市立大学大学院学則第3条）を十分に有していることと判断された場合に合格とするものとする。</p> <p>4. 博士論文研究が高い倫理性、強い責任感と社会性をもって実施され、その成果が人類の健康への貢献を目指したものとなっているかどうか、博士後期課程修了の際に考慮されるべき重要な点である。</p> <p>以上のディプロマ・ポリシーはすべて、薬学部出身者以外の卒業生についても該当する。</p>

博士後期課程・博士課程の専攻別ポリシー（案）

専攻	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
<p>医学研究科</p> <p>医療機能薬学専攻</p> <p>薬学研究科</p>	<p>1. 博士課程学生は同課程に4年（履かれた研究業績を挙げたものにあつては3年）以上在学して、必要単位（30単位）を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、学位論文を提出し、その論文の審査及び最終試験に合格しなければならぬ。</p> <p>2. 薬学研究科論文審査会において選出された原則として4名の審査委員は、審査委員会を構成して審査にあたり、その結果に基づいて地域学術論文審査会へ可否の報告をし、最終審査の原案として提案する。</p> <p>3. 審査委員による審査においては、当該論文が、研究の目的・方法・位置づけ等が明確であること、審査を有する国際学術誌等に原著として掲載され独創性が十分認められること、当該分野における学術的意義が十分に認められること、等の基準を満たし、「研究者として自立して研究活動を行う」に必要な高度の研究能力（名古屋市立立大学大学院学則第3条）を十分に有していると判断された場合に合格とするものとする。</p> <p>4. 博士論文研究が高い倫理性、強い責任感と社会性をもって実施され、その成果が人類の健康への貢献を目指したものであること、かつ、必要に応じて、博士課程修了の際に考慮されるべき重要な点である。</p> <p>以上のディプロマ・ポリシーは薬剤師関連の部分以外は全て、薬学部出身者以外の卒業生についても該当する。</p> <p><養成する人材像></p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院において専門薬剤師等として指導的な立場で医療に貢献できる薬剤師 ・医療拠点において地域の指導的薬剤師として、社会に貢献できる薬剤師 ・大学において臨床薬学教育・研究に指導的役割を担う教員 ・健康・医療・福祉行政に関わる技術系公務員 ・医薬品の安全性に関わる業務の国公立研究所職員 ・治験業務に関わる指導的薬剤師・担当者 	<p>医療機能薬学専攻では、医療薬学系の基礎知識を充実させた上で、臨床での問題を独自に発見し、解決する高い研究能力、あるいは基礎と臨床のかけ橋となる薬学領域の研究を独自に推進できる能力を涵養するためのカリキュラムを組んでいる。このため、座学の必修4科目は医療関連科目として特に重要で臨床に直結する内容であり、選択4科目（7科目）は臨床を理解する上で不可欠な基礎科目の応用論を揃えている。特別演習（10単位）は医療機能薬学及び関連領域における研究の推進に必要な技術や知識の習得を多方面から演習形式により習得することにも、セミナーや学会形式をとり複数の指導者が参加することにより情報の共有化と討論による研究活性化を図る。さらに高いプレゼンテーション能力、討論能力、英語聞き取り・発表能力の肝要に務める。特別研究（12単位）では、医療機能薬学及びその他の薬学領域の学問を基礎とした臨床薬学研究、あるいは基礎と臨床の架け橋となる研究及び博士論文作成の指導を行う。この過程で様々な研究手法・解析手法や科学的思考法を学習し、臨床の問題を解決するだけでなく、独自に問題を発見し、解決に導くことのできる高い研究能力の肝要を、必修科目、選択科目それぞれ4単位以上、特別研究12単位、特別演習10単位、合計30単位以上を取得することが修了要件の一部である。</p> <p>6年制薬学を修了した学生はもとより、薬剤師やその他の医療従事者として働く社会人を含めた広範な経歴の学生が対象となることから、座学の単位取得に關して、適宜、夜間・土日あるいは集中講義の形式等の工夫を行うとともに、1~4年の複数学年で履修可能なカリキュラムとなつている。</p> <p>他学部卒業生の薬学領域での基礎的な知識の補充のためには、他専攻博士前期課程の創薬生命科学基礎I-IVを受講することが期待され、実際、受講することが可能なカリキュラム編成となつている（自由科目で単位認定はなし）。</p>
<p>経済学研究科</p> <p>経済学専攻</p>	<p>博士後期課程では、研究者として自立して研究活動を行い、また、高度な専門業務に従事するために必要な能力とその基盤となる学識・知見を身につけているかどうか、課程修了の基準となる。具体的には、国内外の経済学あるいは社会科学全般の査読付き学術雑誌に学術論文少なくとも1編を掲載あるいは掲載のために受理されることを課程修了に必要な達成度の目安とする。学位授与は以下の3つの場合が可能である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究科に所定の期間在学して、教育理念・教育方針に沿って閉講された学術論文の審査および最終試験に合格すること、学位授与の要件である。 2. 本学大学院博士課程を経ない者であっても本学大学院に学位論文を提出してその審査に合格し、かつ、本学大学院博士課程に所定の年限以上在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた者と同以上の学力がある者として認められる者にも学位を授与することができる。 3. 一定の学術的業績および学力を有すると判断され「早期履修プログラム」履修を認められて入学した者は、1年以上在学し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学術論文の審査および最終試験に合格した場合には、学位が授与される。 4. 学位審査に必要な提出書類・手続き等については、「履修要項」に明記されている。 5. 学位論文には国内外の経済学あるいは社会科学全般のレフェリー制度のある学術論文雑誌等に広く公表されている論文（もしくは公表予定の論文）が含まれる必要があることが「学位論文評価基準」に関する内規」で学生に明示されている。 	<p>（経済学専攻）</p> <p>名古屋市立立大学大学院経済学研究科の基本的な教育理念は経済学や経営学に関する広範で豊かな知識や教養を備えた社会人ならびに高度な専門知識を有する研究者の養成に努め、経済・経営上の諸問題に柔軟かつ的確に対応できる高度な専門性を持つ人材を社会に送り出すことである。この研究科の理念を実現するために、経済学専攻では次のような方針にしたがってカリキュラムを作成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度な専門知識を確かなものとするために、研究科の専門科目を、主としてミクロ経済学・マクロ経済学の理論的發展を目指す「経済理論系」、財政・金融政策にかかわる実践的問題を主たる研究対象とする「経済政策I系」、国際経済政策・産業政策などの望ましいあり方を主たる研究対象とする「経済政策II系」、そして、主として経済システムの多様性とそれらの変化を追及しようとする「制度・歴史系」の四つの系に大別してカリキュラムを構築している。 2. 授業科目は上記の各系の科目として閉講されているが、全ての授業科目が選択可能となっており、学生の自主的な知識・能力の展開を可能なものとし、経済社会の変化に対応して学生自身の専門性を広げることを選んでいる。後期課程にあつても、専門講義科目8単位以上の履修は必修であり、関連分野の知見がコアスキルによって修得できるよつになつていく。 3. 博士後期課程にあつては学位論文執筆が学修の主たる目的となるため、指導教員の担当授業科目に係る演習が重要となる。少人数教育である演習では、各自の研究テーマに従って自主的に学修を進め、指導教員の指導および学生同士の議論に基づき、研究成果を確たるものとする体制がとられている。関連分野の知見を必要とする場合には、開講科目の履修により、指導教員以外の教員との議論を通じて、研究の幅を広くすることが可能となつている。 4. 指導教員による演習科目の履修は3年間の必修であり、学期を迫つて、教員の指導のもとに各自の研究計画に従つて研究を進めることができる。他方、研究の進展とその必要に応じて、科目履修を通して関連分野の知見を獲得することができるよつな体制を取つている。研究の客観性を担保するために複数指導教員制がとられている。

博士後期課程・博士課程の専攻別ポリシー（案）

専攻	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
<p>経済学研究科</p> <p>経営学専攻</p>		<p>(経営学専攻)</p> <p>名古屋大学大学院経済学研究科の基本的な教育理念は経済学や経営学に関する広範で豊かな知識や教養を備えた社会人ならびに高度な専門知識を有する研究者の養成に努め、経済、経営上の諸問題に柔軟かつ的確に対応できる高度な専門性を持つ人材を社会に送り出すことである。この研究科の理念を実現するために、経営学専攻では次のような方針にしたがってカリキュラムを作成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度な専門知識を確実なものとすするために、研究科の専門科目を、企業経営に関する様々な問題を解決する方法を探究する「経営系」、会計情報に関する諸問題を理論的・実証的に分析する「会計系」、企業の財務政策や戦略的問題に計量的手法で接近することを旨とする「ファイナンス・情報系」の三つの系に大別してカリキュラムを構築している。 2. 授業科目は上記の各系の科目として開講されているが、全ての授業科目が選択可能となっており、学生の自主的な知識・能力の展開を可能なものとなっている。よって、企業の経営環境の変化に対応して学生自身が問題の本質を究極め、処方箋を探るための専門性の拡張を可能にしている。後期課程にあっても、専門講義科目8単位の履修は必修であり、関連分野の知見がコースワークによって修得できるようにしている。 3. 博士後期課程にあつては学位論文執筆が学修の主たる目的となるため、指導教員の担当授業科目に係る演習が重要なものとなる。少人数教育である演習では、各自の研究テーマに従って自主的に学修を進め、教員の指導および学生間の議論に基づき、研究成果を確たるものとする体制がとられている。関連分野の知見を必要とする場合には、開講科目の履修により、指導教員以外の教員との議論を通じて、研究の幅を広くすることが可能となっている。 4. 指導教員による演習科目の履修は3年間の必修であり、学期を追って、教員の指導のもとに各自の研究計画に従って研究を進めることができる。他方、研究の進展とそれに伴って、科目履修を通して関連分野の知見を獲得することができような体制を取っている。研究の客観性を担保するために複数指導教員制がとられている。
<p>人間文化研究科</p> <p>人間文化専攻</p>	<p>《人材の養成に関する目的》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度かつ先進的な国際水準の研究を行うことにより、次世代を担う若手研究者を育成し、また多様な経歴を持つ社会人の再教育を行うこと 2. 人文社会諸科学の高度な知識と研究能力を涵養して、地域と国際社会に対応できる人材、現代社会の諸問題について指導的な役割を果たすことができる人材、グローバルな視点とローカルな視点を併せもつ高度専門職業人や研究者を育成すること 3. 地域と連携した研究・教育を推進すること <p>上記目的を踏まえ、博士後期課程にあつては、本研究科に3年以上在学して、特殊講義を8単位と特別演習（研究指導を含む）を12単位の必要最低単位数を修得することで、専門領域における自立した研究者としての能力を獲得し、さらに博士論文の審査および試験に合格することが学位授与の要件である。</p> <p>なお博士論文の提出要件は、予備論文を提出して審査に合格し、さらに公開セミナーを実施して博士論文の執筆が可とされ、かつ博士論文提出までに、学会誌等（学内紀要を含む）に論文2本の公開、あるいは論文1本の公開と学会大会報告1回を行うことである。</p> <p>次に博士論文の審査基準は、当該論文が、明確な研究目的・方法を持ち、先行研究を十分踏まえ、独創性が認められること、当該分野における学術的意義が十分に認められることである。</p>	<p>本研究科の人材養成目的を達成するために、博士後期課程のカリキュラムは、「文化研究」と「人間・社会研究」の二つの系列で構成されている。学生は、入学時に二つの研究系列のうちどちらか1つを主たる研究領域として選択する。</p> <p>「特殊講義」は当該分野における専門知識を修得し、何が研究課題になるのかを学び、研究の方法と技能を身につけ、自らの研究テーマの発見・確立を目指す科目であり、8単位以上修得しなければならない。</p> <p>「特別演習」は、博士後期課程の中心になる授業科目で、学生の研究テーマの設定とその深化、展開をはかり、博士論文を完成するための適切な研究指導を行う科目であり、毎年4単位ずつ、3年間で12単位を修得する。</p> <p>研究指導は、「特別演習」を担当する主指導教員の他に副指導教員の2名があたる。1年次では、研究計画書を作成し、設定した研究テーマについての関連資料・文献を収集し、予備的研究報告を行う。2年次では、より詳細な研究計画書を作成し、それにしたがって論文執筆作業に入り、指導教員の指導を受け、後期には博士論文のための予備論文を作成し、審査を受ける。あわせて学会報告、論文発表を目指す。3年次には、あらためて研究計画書を作成し、博士論文の執筆を進め、2年次の予備論文の成果に基づいて「公開セミナー」を行い、研究概要を口頭発表し、指導教員以外の教員からの指導も受ける。追加的な研究を進めた上で博士論文を完成する。あわせて学会報告、論文発表を目指す。</p>
<p>芸術学研究科</p> <p>芸術工学専攻</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 芸術工学分野の研究者および高度な専門的職業人として各分野で指導者として活躍できる人材を輩出する。 2. 博士後期課程に2年以上在籍し、特別演習8単位、特別研究8単位の修得が学位授与の要件である。 3. 学術雑誌への査読付き論文2編の掲載決定が学位授与の要件である。 4. 最終試験では、専門的資質、語学力を評価し、学位論文公聴会は公開で実施し、芸術工学分野における研究者および産官学分野における高度な専門的職業人の指導者として相応しい知識・技量・実践力を修得していることが合格の基準となり、3名以上の審査委員による論文および最終試験の審査、及び、教授会での投票審議により可否を決定する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人類共通の未来の設計と構築に具体的に貢献しようとする高度な専門的職業人、また自立的に研究活動を展開できる研究者を養成するために、環境情報設計学及び生活環境計画学2科目に特別研究と特別演習を設ける。 2. 定期的な中間研究報告会を開催し、研究の指導、推進の機会を設ける。 3. 社会人学生のために、授業の昼夜開講制と長期履修制を実施する。

博士後期課程・博士課程の専攻別ポリシー（案）

専攻	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
看護学専攻	<p>大学院学則に基づく授業科目及び単位数の修得など規定にある要件を満たし、以下の能力を身に付けた学生に対して、「博士」（看護学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科学の発展や技術の進歩に伴う医療の高度化、社会の構造の変化や国際化などに伴う健康課題の多様化に即した研究・教育を遂行するに必要な広い視野と豊かな学識を有している。 2. その広い視野と豊かな学識を十分に活用し、自立して、独創的で高度な研究活動を継続する意志と能力を有している。 3. 加えて、博士論文の審査と最終試験では、研究目的（問題設定）、研究方法、実施、分析、考察の適切性、研究の独創性、学術的発展性と意義、倫理的配慮などの点で、博士の学位に相応する内容であると認められる必要がある。 <p>1. 物質科学、生命科学、情報科学などの研究分野において幅広く深い知識を備え、専門分野における高い研究能力と高度な専門性を必要とする職業を担うための能力を身につけているかが課程修了の要件となる。</p> <p>2. 博士後期課程にあっては、当該研究科の定める履修期間在学して、研究科の教育・研究の理念に沿った研究指導を受け、所定の授業科目を履修して、基準となる単位数以上を修得し、かつ所定年限内に研究科が行う博士論文の審査及び最終試験に合格することが学位授与の要件である。</p> <p>3. 博士後期課程にあっては、以下の観点から博士論文の審査及び最終試験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> (ア) 当研究科にふさわしい内容で国際的に通用する水準の研究を行っていること。 (イ) 自立した研究者としての能力を有し、これからも活躍が期待できること。 (ウ) 未知の問題を探し出し、その重要性を判断し、問題解決へ向けての手法を考える能力などを体得していること。 (エ) 研究する上で独創性が重要なことを理解し、自ら独創性を正当に評価でき、これを志向した態度を体得していること。 (オ) 研究を遂行する上で必要な能力（討論、研究発表、共同研究の遂行、研究環境の構築など）を有すること。 (カ) 英語による研究論文の執筆や国際会議での発表に必要な語学力を身につけていること。 <p>4. 研究が高い倫理性と責任感をもって実施されているかも、大学院課程修了の際に考慮される。</p> <p>5. 「博士の学位に関する審査内規」は履修要綱に明記している。</p>	<p>看護学研究科博士後期課程では、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康支援看護学分野とケアシステム看護学分野の学問的構築を推進し、国際社会など多様な場で活躍できる優れた教育・研究者を育成するために、高い専門的知識と技術を修得させ、医療の高度化に対応する先進的研究および、地域の保健医療福祉分野のニーズに対応する研究を実践する。 2. 専門領域の学問的知識と技術の向上を図るため、専門別特講、特講演習および特別研究の科目群を配置する。 3. また、多面的な専門知識と技術を修得し、看護学領域における高度な学問的能力と研究実践能力を養うために支利科目群を配置する。 4. 特別研究では、研究計画と実施、博士論文予備審査、関係ある学術雑誌への論文発表、博士論文審査および最終試験などを経て、高度な看護学の学問的構築と研究能力を修得させる。 <p>システム自然科学研究科自然科学専攻博士後期課程では、自然の理の解明と、複雑な現代社会が抱える様々な問題の解決に、高度で分野横断的な科学技術を駆使して取り組む研究者を養成するために、次のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>専門科目 専門科目は、システム自然科学研究科における各専門分野の学問体系や専門技術を博士後期課程大学院生個々の特殊性を考慮して教授するものである。</p> <p>演習科目 各研究分野ごとの話題において、調査発表・討論のトレーニングをゼミ形式で行う必修科目である。</p> <p>特別研究 特別研究は、指導教員による研究指導に基づき、3年間（社会人学生にあっては最長5年間）の研究を行い、その研究成果を論文にまとめるとともに口頭発表する必修科目である。研究指導は、年度始めに作成された研究指導計画書の内容に基づいて行われ、その成果は年度末の研究指導報告書に記載される。</p> <p>(生命情報系) 生命のメカニズムや歴史、生物と環境との関わりなどを、最先端のバイオサイエンスやインフォマティクスを駆使して探求するために必要な専門科目を学ぶ。</p> <p>(自然情報系) 自然界における未知の現象の発見や、私たちが実社会において克服すべき問題点の解決などに、数学・物理学・化学さらに情報学などを駆使して取り組むために必要な専門科目を学ぶ。</p>
システム自然科学研究科	<p>1. 物質科学、生命科学、情報科学などの研究分野において幅広く深い知識を備え、専門分野における高い研究能力と高度な専門性を必要とする職業を担うための能力を身につけているかが課程修了の要件となる。</p> <p>2. 博士後期課程にあっては、当該研究科の定める履修期間在学して、研究科の教育・研究の理念に沿った研究指導を受け、所定の授業科目を履修して、基準となる単位数以上を修得し、かつ所定年限内に研究科が行う博士論文の審査及び最終試験に合格することが学位授与の要件である。</p> <p>3. 博士後期課程にあっては、以下の観点から博士論文の審査及び最終試験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> (ア) 当研究科にふさわしい内容で国際的に通用する水準の研究を行っていること。 (イ) 自立した研究者としての能力を有し、これからも活躍が期待できること。 (ウ) 未知の問題を探し出し、その重要性を判断し、問題解決へ向けての手法を考える能力などを体得していること。 (エ) 研究する上で独創性が重要なことを理解し、自ら独創性を正当に評価でき、これを志向した態度を体得していること。 (オ) 研究を遂行する上で必要な能力（討論、研究発表、共同研究の遂行、研究環境の構築など）を有すること。 (カ) 英語による研究論文の執筆や国際会議での発表に必要な語学力を身につけていること。 <p>4. 研究が高い倫理性と責任感をもって実施されているかも、大学院課程修了の際に考慮される。</p> <p>5. 「博士の学位に関する審査内規」は履修要綱に明記している。</p>	<p>看護学研究科博士後期課程では、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康支援看護学分野とケアシステム看護学分野の学問的構築を推進し、国際社会など多様な場で活躍できる優れた教育・研究者を育成するために、高い専門的知識と技術を修得させ、医療の高度化に対応する先進的研究および、地域の保健医療福祉分野のニーズに対応する研究を実践する。 2. 専門領域の学問的知識と技術の向上を図るため、専門別特講、特講演習および特別研究の科目群を配置する。 3. また、多面的な専門知識と技術を修得し、看護学領域における高度な学問的能力と研究実践能力を養うために支利科目群を配置する。 4. 特別研究では、研究計画と実施、博士論文予備審査、関係ある学術雑誌への論文発表、博士論文審査および最終試験などを経て、高度な看護学の学問的構築と研究能力を修得させる。 <p>システム自然科学研究科自然科学専攻博士後期課程では、自然の理の解明と、複雑な現代社会が抱える様々な問題の解決に、高度で分野横断的な科学技術を駆使して取り組む研究者を養成するために、次のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>専門科目 専門科目は、システム自然科学研究科における各専門分野の学問体系や専門技術を博士後期課程大学院生個々の特殊性を考慮して教授するものである。</p> <p>演習科目 各研究分野ごとの話題において、調査発表・討論のトレーニングをゼミ形式で行う必修科目である。</p> <p>特別研究 特別研究は、指導教員による研究指導に基づき、3年間（社会人学生にあっては最長5年間）の研究を行い、その研究成果を論文にまとめるとともに口頭発表する必修科目である。研究指導は、年度始めに作成された研究指導計画書の内容に基づいて行われ、その成果は年度末の研究指導報告書に記載される。</p> <p>(生命情報系) 生命のメカニズムや歴史、生物と環境との関わりなどを、最先端のバイオサイエンスやインフォマティクスを駆使して探求するために必要な専門科目を学ぶ。</p> <p>(自然情報系) 自然界における未知の現象の発見や、私たちが実社会において克服すべき問題点の解決などに、数学・物理学・化学さらに情報学などを駆使して取り組むために必要な専門科目を学ぶ。</p>